

令和5年度 第2G1磯001
防災道の駅整備事業(防災倉庫建築工事)

建築意匠・構造

図面番号	図 面 名 称	縮尺(A2)
	表紙・図面リスト	N.S
	<特記仕様書>	
A-01	特記仕様書(共通事項・仮設工事)	N.S
A-02	特記仕様書(その1)	N.S
A-03	特記仕様書(その2)	N.S
A-04	特記仕様書(その3)	N.S
	特記仕様書(その4)	
	特記仕様書(その5)	
	特記仕様書(その6)	
	特記仕様書(その7)	
A-05	特記仕様書(その8)	N.S
A-06	特記仕様書(その9)	N.S
	<意匠図>	
A-07	付近見取図・配置図	1:100
A-08	土地利用計画図	1:100
A-09	敷地現況図	1:100
A-10	造成計画図・仮設計画図	1:100
A-11	敷地・建物求積図	1:100
A-12	平面詳細図・屋根伏図	1:50
A-13	立面図	1:50
A-14	断面図・梁伏図・部材表	1:50

電 氣 設 備

図面番号	図 面 名 称	縮尺(A2)
E-01	特記仕様書(電気設備の部)	N.S
E-02	電気設備 電灯設備図	1:100
E-03	電気設備 単線結線図盤図	1:10

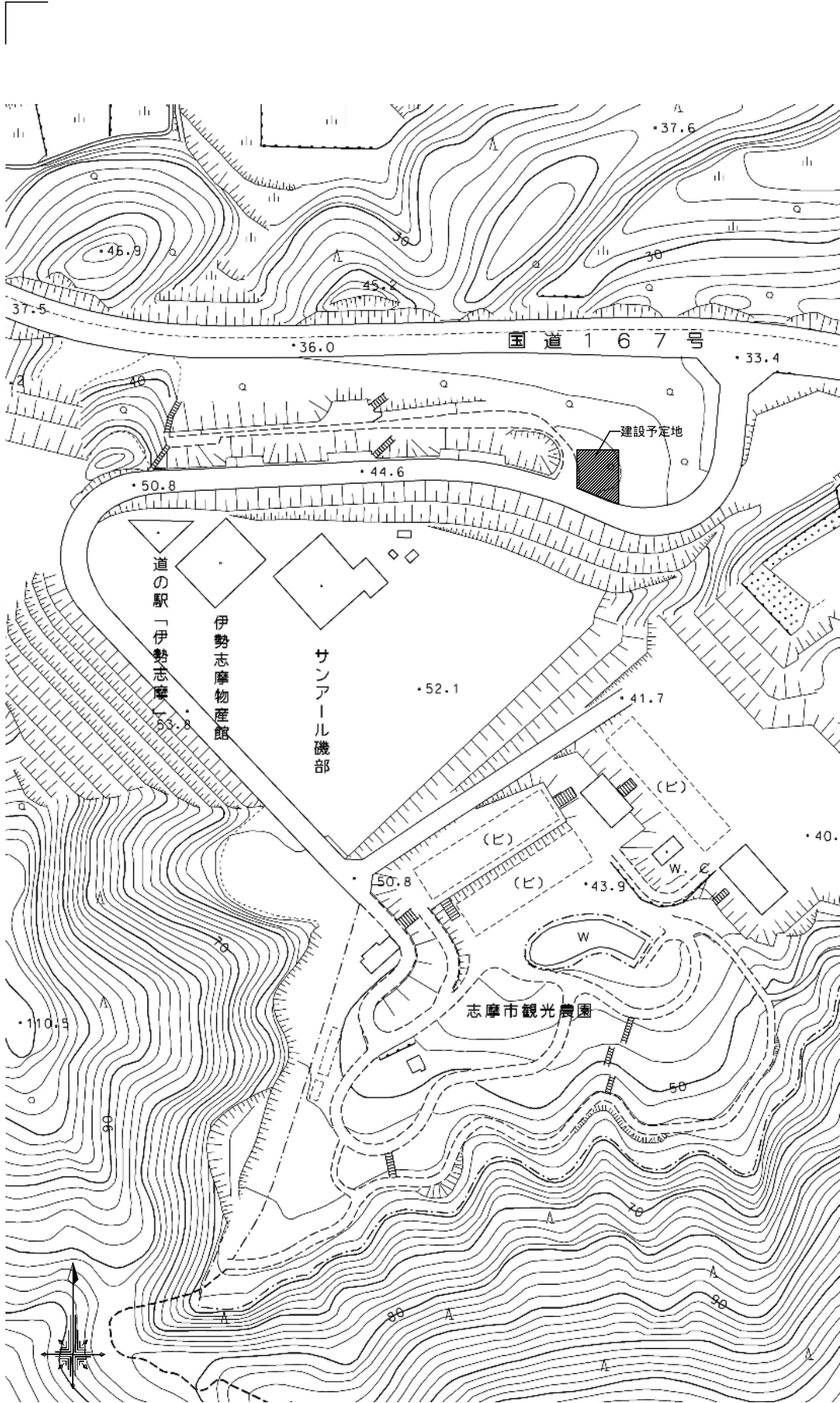
機械設備

[illegible]

④ 地盤工事	⑤捨コンクリート 地盤	範囲 ・基礎梁下、土に接するスラブ下 ・図示による（ ） 厚さ 30mm 設計基準強度 18N/mm ² スランブ 5cm又は18cm	(4.6.4)	⑥ コンクリート工事	①コンクリートの種類	コンクリートの類別 ・ 類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート） ・ 類（JIS A 5308に適合したコンクリート）	(6.2.1)	⑥ コンクリート工事	13 打増し厚さ（打ち放し仕上げ部）	・打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） ・ 20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） ・ 10mm ・ 20mm	(6.8.1)	7 鉄骨工事	8 溶接材料	溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による	(7.2.5)																													
	⑥床下防湿層	材料 ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ビット下を除く）	(4.6.2、5)		②コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等	①普通コンクリート (6.2.1～4)(6.3.2)(6.10.1、2) <table><tr><th>設計基準強度(N/mm2)</th><th>スランブ(cm)</th><th>気乾単位容積質量(t/m3)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ 24</td><td></td><td>2.3程度</td><td></td></tr><tr><td>・ 21</td><td>18</td><td></td><td></td></tr></table> 印は構造体強度補正値(S)を適用しない ・軽量コンクリート <table><tr><th>設計基準強度(N/mm2)</th><th>スランブ(cm)</th><th>気乾単位容積質量(t/m3)</th><th>種類</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・</td><td>21</td><td></td><td>・ 1種 ・ 2種</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	設計基準強度(N/mm2)		スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所		・ 24		2.3程度		・ 21	18			設計基準強度(N/mm2)	スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所	・	21		・ 1種 ・ 2種		・					(6.2.1～4)(6.3.2)(6.10.1、2)	14 型枠	せき板の材料及び厚さ 合板 2mm ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による（ ） ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による（ ） 打増し厚さ 20mm 打増し範囲 ・図示による（ ） スリーブの材種・規格等 ・図示による（ ） 実施要領 ・図示による（ ）	(6.8.2)	9 ターンバックル	種類 建築用ターンバックルボルト 羽子板ボルト 建築用ターンバックル胴 割枠式 ねじの呼び ・図示による（ ）	(7.2.6)		
設計基準強度(N/mm2)	スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所																																									
・ 24		2.3程度																																										
・ 21	18																																											
設計基準強度(N/mm2)	スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所																																								
・	21		・ 1種 ・ 2種																																									
・																																												
⑤ 鉄筋工事	①鉄筋の種類	鉄筋の種類 <table><tr><th>種類の記号</th><th>呼び径(mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ SD295</td><td>D10 D13</td><td></td></tr><tr><td>・ SD345</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	種類の記号	呼び径(mm)	備考	・ SD295	D10 D13		・ SD345			・			(5.2.1)	③ セメント	③セメント	種類 ・普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種（普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする） 適用箇所（ ） ・高炉セメントB種 適用箇所（ 基礎及び基礎梁 ） ・フライアッシュセメントB種 適用箇所（ ）	(6.3.1)	⑦ 鉄骨工事	1 鉄骨の製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 ○建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（ ）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・監督職員の承諾する工場	(7.1.3)	11 スタッド	種類等 <table><tr><th>径(呼び名)</th><th>呼び長さ (mm)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ 16</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 19</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 22</td><td></td><td></td></tr></table>	径(呼び名)	呼び長さ (mm)	適用箇所	・ 16			・ 19			・ 22			(7.2.8)						
	種類の記号	呼び径(mm)	備考																																									
・ SD295	D10 D13																																											
・ SD345																																												
・																																												
径(呼び名)	呼び長さ (mm)	適用箇所																																										
・ 16																																												
・ 19																																												
・ 22																																												
④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）	②溶接金網	鉄線の形状等 <table><tr><th>種類</th><th>種類の記号</th><th>鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)</th><th>使用部位</th></tr><tr><td>・溶接金網</td><td></td><td>6×200×200</td><td>外構</td></tr><tr><td>・鉄筋格子</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	・溶接金網		6×200×200	外構	・鉄筋格子				(5.2.2)	④ 骨材	④骨材	アルカリシリカ反応による区分 ○A ・ B	(6.3.1)	2 鉄骨制作工場における施工管理技術者	・配置する ・配置しない	(7.1.4)	⑫ 柱底均しモルタル	無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 ○標準仕様書7.2.9(2)(7)から(1)による	(7.2.9)																			
	種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																																								
・溶接金網		6×200×200	外構																																									
・鉄筋格子																																												
③鉄筋の継手及び定着	鉄筋の継手の方法等 <table><tr><th>部 位</th><th>継手の方法</th><th>呼び径 (mm)</th></tr><tr><td>柱、梁の主筋</td><td>・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手</td><td></td></tr><tr><td>耐力壁の鉄筋</td><td>・重ね継手</td><td></td></tr><tr><td>その他の鉄筋 ()</td><td>○重ね継手</td><td></td></tr></table> 継手位置 ・図示による（ ） 柱及び梁主筋の重ね継手の長さ ・図示による（ ） 耐力壁の重ね継手の長さ ・図示による（ ） 鉄筋の定着の長さ ・図示による（ A-19 ）	部 位	継手の方法	呼び径 (mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手		耐力壁の鉄筋	・重ね継手		その他の鉄筋 ()	○重ね継手		(5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)	5 混和材料	・混和剤 混和剤の種類 標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・混和材 混和材の種類 標準仕様書6.3.1(4)(b)による	(6.3.1)	3 鋼材	種類等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所(主に部分)</th><th>規 格 等</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr></table>	種類の記号	適用箇所(主に部分)	規 格 等			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・	(7.2.1)	13 製作精度	鉄骨の製作精度は、JASS 6付則6 [鉄骨精度検査基準] に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ・H12建告第1464号第二号イ(2)による アンダーカットの寸法 ・H12建告第1464号第二号イ(3)による 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による	(7.3.3)
部 位	継手の方法	呼び径 (mm)																																										
柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手																																											
耐力壁の鉄筋	・重ね継手																																											
その他の鉄筋 ()	○重ね継手																																											
種類の記号	適用箇所(主に部分)	規 格 等																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
⑤ 各部配筋	④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）	最小かぶり厚さ 図示による（ A-19 ） ・ 軽量コンクリートを適用する場合 ・あり 適用箇所() ・最小かぶり厚さに加える厚さ()mm ・ 耐久性上不利な箇所がある場合（塩害等を受けるおそれのある部分等） ・あり 適用箇所() ・最小かぶり厚さに加える厚さ()mm	(5.3.5)	⑦ 暑中コンクリート	⑦暑中コンクリート	適用期間 ・図示による（ ） 構造体強度補正値 ・標準仕様書6.11.2(3)(7)による ・積算温度による	(6.11.1、2)	4 高力ボルト	高力ボルトの種類 ・トルシア形高力ボルト ・ JIS形高力ボルト ・ ボルトの線端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 ・図示による（ ） 摩擦面の処理方法 ・ ・自然発錆（黒皮等を除去した後に自然放置して表面に赤さびが発生した状態） ・プラスト処理（表面粗度50μmRz以上） ・すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験において、対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況の確認をする	(7.2.2)(7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)	14 仮組	仮組を行う範囲 ・図示による（ ）	(7.3.10)																															
	⑤各部配筋	各部配筋 図示による（ A19～A22 ）	(5.3.7)		6 寒中コンクリート	適用箇所 ・図示による（ ） セメントの種類 (6.13.2) ・普通ポルトランドセメント ・中熟熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント	(6.13.1、2)		5 普通ボルト	ボルト及びナットの材料 ・標準仕様書表 7.2.3 (JIS付属書品目)又は次による。 ボルトの規格は、JIS B 1180とする。 ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。 ナットの規格は、JIS B 1181とする。 ナットの種類は、六角ナット・Cとし、材料は、鋼とする。 ・ 座金 JIS B 1256 ボルトの線端距離、ボルトの間隔、ゲージ等 ・図示による（ ） 母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 ねじの呼び径+1.0mm		(7.2.3)(7.3.2、8)	15 溶接技能者の技量付加試験	試験の要領 ・図示による（ ）	(7.6.3)																													
6 圧接完了後の圧接部の試験	②溶接継手	適用箇所 ・図示による（ ） H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 機械式継手の種類 ・図示による（ ）	(5.6.3)	9 無筋コンクリート	コンクリートの種類 ・ 普通コンクリート セメントの種類 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 設計基準強度 18N/mm ² スランブ 15cm又は18cm 適用箇所 ・ 標準仕様書6.14.1(4)(7)～(h)による	(6.14.1)	6 溶融亜鉛めっき高力ボルト	ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による（ ） 摩擦面の処理方法 ・ ・抜き取り検査 ・抜き取り検査 ・抜き取り検査 ・りん酸塩処理 ・すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験において、対比試験片を作成し、摩擦面の処理状況の確認をする		(7.3.2)(7.4.2)(7.12.5)	16 溶接接合	開先の形状 ・図示による（ ） ・エンドタブの切断する部分 切断する箇所 ・図示による（ ） 切断範囲 ・図示による（ ） ・ ・エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する 切断面の仕上げ ・標準仕様書7.6.7(1)(h)(b) による ・スカラップの形状 ・図示による（ ）	(7.6.4、7)																															
	7 機械式継手	適用箇所 ・図示による（ ） H12建告第1463号に適合する性能 ・A級 機械式継手の種類 ・図示による（ ）	(5.5.2)		10 流動化コンクリート	適用箇所 ・図示による（ ）		(6.15.1)	7 アンカーボルト	・構造用アンカーボルト 種類 ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ⑦建方用アンカーボルト 種類 ・ S400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 標準仕様書表7.2.3による ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による	(7.2.4)(7.3.2)	17 入熱、バス間温度の溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・図示による（ ） 適用箇所 ・図示による（ ） ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部	(7.6.12)																														
8 溶接継手	③鉄筋の継手及び定着	試験 超音波探傷試験 ・引張試験 試験方法等 標準仕様書5.4.10(4)(b) による	(5.4.10)	10 流動化コンクリートの仕上り	打継ぎの位置 ・図示による（ ） 目地寸法 ・標準仕様書9.7.3(1)(7)～(9) ・図示による（ ） ひび割れの誘発目地の位置、形状、寸法 ・図示による（ ）	(6.6.4)(6.8.1)	7 アンカーボルト	・構造用アンカーボルト 種類 ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ⑦建方用アンカーボルト 種類 ・ S400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 標準仕様書表7.2.3による ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・図示による		(7.2.4)(7.3.2)	18 溶接部の試験	平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ・抜き取り検査 抜き取り検査 JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] の付表3「溶接」に関する試験方法等 ・ JASS 6 10.4 [受入検査] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。 ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ・工場溶接の場合 AOQL(%) ・ 4.0 ・ 2.5 <table><tr><th>部</th><th>全て</th><th></th><th></th></tr><tr><td>検査水準</td><td>第 6 水準</td><td></td><td></td></tr></table> ・工事現場溶接の場合 ・全て	部	全て			検査水準	第 6 水準			(7.6.12)																							
	部	全て																																										
検査水準	第 6 水準																																											
7 地盤改良工法	⑤捨コンクリート 地盤	範囲 ・基礎梁下、土に接するスラブ下 ・図示による（ ） 厚さ 30mm 設計基準強度 18N/mm ² スランブ 5cm又は18cm	(4.6.4)	⑥ コンクリート工事	①コンクリートの種類	コンクリートの類別 ・ 類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート） ・ 類（JIS A 5308に適合したコンクリート）	(6.2.1)	⑥ コンクリート工事	13 打増し厚さ（打ち放し仕上げ部）	・打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る） ・ 20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ（内部に面する部分に限る） ・ 10mm ・ 20mm	(6.8.1)	7 鉄骨工事	8 溶接材料	溶接材料 ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による	(7.2.5)																													
	⑥床下防湿層	材料 ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 範囲 ・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ビット下を除く）	(4.6.2、5)		②コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等	①普通コンクリート (6.2.1～4)(6.3.2)(6.10.1、2) <table><tr><th>設計基準強度(N/mm2)</th><th>スランブ(cm)</th><th>気乾単位容積質量(t/m3)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ 24</td><td></td><td>2.3程度</td><td></td></tr><tr><td>・ 21</td><td>18</td><td></td><td></td></tr></table> 印は構造体強度補正値(S)を適用しない ・軽量コンクリート <table><tr><th>設計基準強度(N/mm2)</th><th>スランブ(cm)</th><th>気乾単位容積質量(t/m3)</th><th>種類</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・</td><td>21</td><td></td><td>・ 1種 ・ 2種</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	設計基準強度(N/mm2)		スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所		・ 24		2.3程度		・ 21	18			設計基準強度(N/mm2)	スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所	・	21		・ 1種 ・ 2種		・					(6.2.1～4)(6.3.2)(6.10.1、2)	14 型枠	せき板の材料及び厚さ 合板 2mm ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による（ ） ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による（ ） 打増し厚さ 20mm 打増し範囲 ・図示による（ ） スリーブの材種・規格等 ・図示による（ ） 実施要領 ・図示による（ ）	(6.8.2)	9 ターンバックル	種類 建築用ターンバックルボルト 羽子板ボルト 建築用ターンバックル胴 割枠式 ねじの呼び ・図示による（ ）	(7.2.6)		
設計基準強度(N/mm2)	スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	適用箇所																																									
・ 24		2.3程度																																										
・ 21	18																																											
設計基準強度(N/mm2)	スランブ(cm)	気乾単位容積質量(t/m3)	種類	適用箇所																																								
・	21		・ 1種 ・ 2種																																									
・																																												
⑤ 鉄筋工事	①鉄筋の種類	鉄筋の種類 <table><tr><th>種類の記号</th><th>呼び径(mm)</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ SD295</td><td>D10 D13</td><td></td></tr><tr><td>・ SD345</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	種類の記号	呼び径(mm)	備考	・ SD295	D10 D13		・ SD345			・			(5.2.1)	③ セメント	③セメント	種類 ・普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種（普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする） 適用箇所（ ） ・高炉セメントB種 適用箇所（ 基礎及び基礎梁 ） ・フライアッシュセメントB種 適用箇所（ ）	(6.3.1)	⑦ 鉄骨工事	1 鉄骨の製作工場	鉄骨製作工場の加工能力 ○建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める（ ）グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・監督職員の承諾する工場	(7.1.3)	11 スタッド	種類等 <table><tr><th>径(呼び名)</th><th>呼び長さ (mm)</th><th>適用箇所</th></tr><tr><td>・ 16</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 19</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 22</td><td></td><td></td></tr></table>	径(呼び名)	呼び長さ (mm)	適用箇所	・ 16			・ 19			・ 22			(7.2.8)						
	種類の記号	呼び径(mm)	備考																																									
・ SD295	D10 D13																																											
・ SD345																																												
・																																												
径(呼び名)	呼び長さ (mm)	適用箇所																																										
・ 16																																												
・ 19																																												
・ 22																																												
④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）	②溶接金網	鉄線の形状等 <table><tr><th>種類</th><th>種類の記号</th><th>鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)</th><th>使用部位</th></tr><tr><td>・溶接金網</td><td></td><td>6×200×200</td><td>外構</td></tr><tr><td>・鉄筋格子</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位	・溶接金網		6×200×200	外構	・鉄筋格子				(5.2.2)	④ 骨材	④骨材	アルカリシリカ反応による区分 ○A ・ B	(6.3.1)	2 鉄骨制作工場における施工管理技術者	・配置する ・配置しない	(7.1.4)	⑫ 柱底均しモルタル	無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 ○標準仕様書7.2.9(2)(7)から(1)による	(7.2.9)																			
	種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位																																								
・溶接金網		6×200×200	外構																																									
・鉄筋格子																																												
③鉄筋の継手及び定着	鉄筋の継手の方法等 <table><tr><th>部 位</th><th>継手の方法</th><th>呼び径 (mm)</th></tr><tr><td>柱、梁の主筋</td><td>・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手</td><td></td></tr><tr><td>耐力壁の鉄筋</td><td>・重ね継手</td><td></td></tr><tr><td>その他の鉄筋 ()</td><td>○重ね継手</td><td></td></tr></table> 継手位置 ・図示による（ ） 柱及び梁主筋の重ね継手の長さ ・図示による（ ） 耐力壁の重ね継手の長さ ・図示による（ ） 鉄筋の定着の長さ ・図示による（ A-19 ）	部 位	継手の方法	呼び径 (mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手		耐力壁の鉄筋	・重ね継手		その他の鉄筋 ()	○重ね継手		(5.3.4)(5.5.2)(5.6.3)	5 混和材料	・混和剤 混和剤の種類 標準仕様書6.3.1(4)(a)による ・混和材 混和材の種類 標準仕様書6.3.1(4)(b)による	(6.3.1)	3 鋼材	種類等 <table><tr><th>種類の記号</th><th>適用箇所(主に部分)</th><th>規 格 等</th></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・ JIS規格による ・</td></tr></table>	種類の記号	適用箇所(主に部分)	規 格 等			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・			・ JIS規格による ・	(7.2.1)	13 製作精度	鉄骨の製作精度は、JASS 6付則6 [鉄骨精度検査基準] に加えて、次による 通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ・H12建告第1464号第二号イ(2)による アンダーカットの寸法 ・H12建告第1464号第二号イ(3)による 食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による	(7.3.3)
部 位	継手の方法	呼び径 (mm)																																										
柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手																																											
耐力壁の鉄筋	・重ね継手																																											
その他の鉄筋 ()	○重ね継手																																											
種類の記号	適用箇所(主に部分)	規 格 等																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
		・ JIS規格による ・																																										
⑤ 各部配筋	④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）	最小かぶり厚さ 図示による（ A-19 ） ・ 軽量コンクリートを適用する場合 ・あり 適用箇所() ・最小かぶり厚さに加える厚さ()mm ・ 耐久性上不利な箇所がある場合（塩害等を受けるおそれのある部分等）																																										

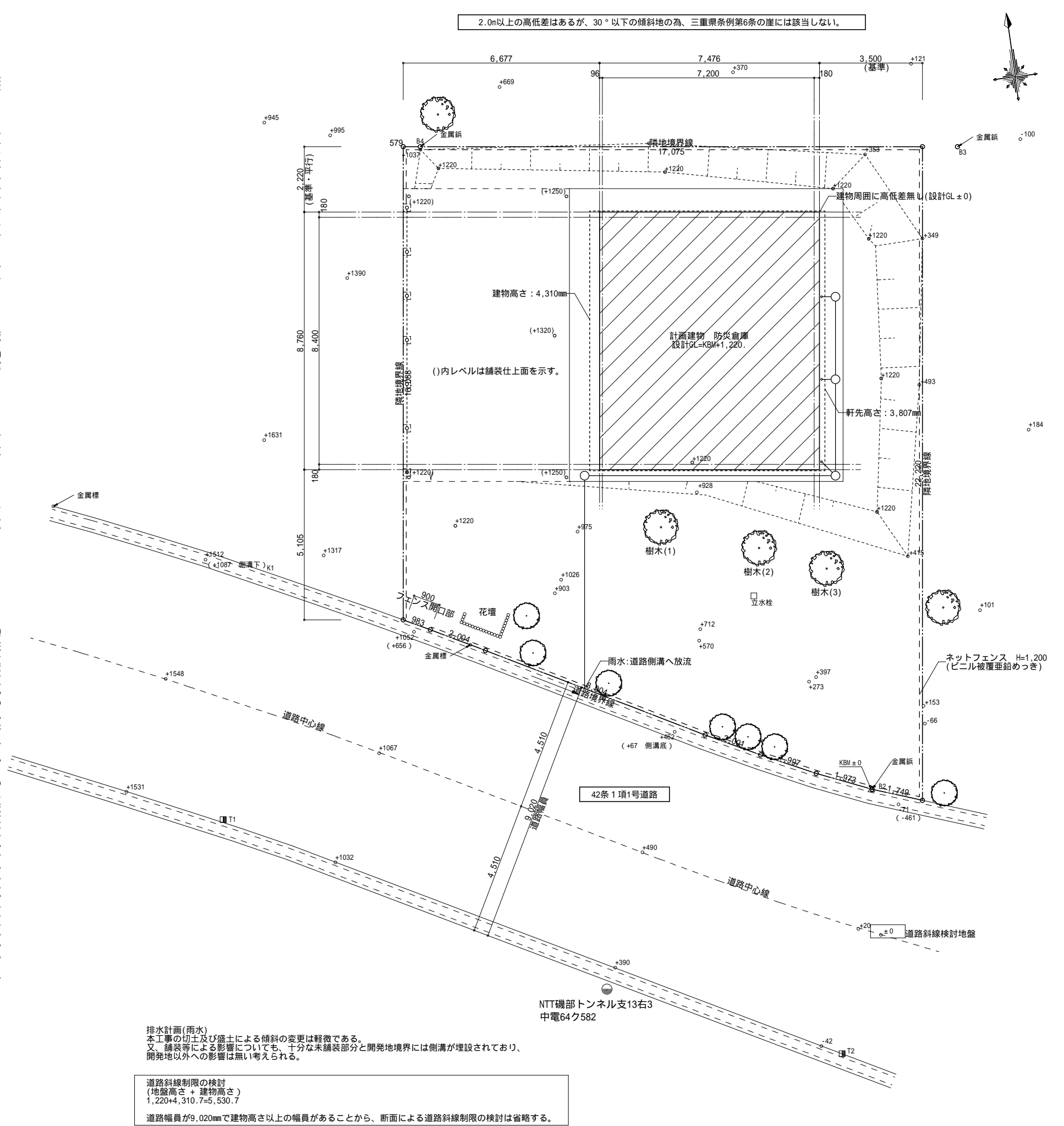
7 鉄骨工事	19 錆止め塗装	(7.8.2、4)(18.3.2)	8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1 補強コンクリートブロック造	(8.2.2、3、5、7、8)	9 防水工事	1 アスファルト防水	(9.2.2～5)(表 9.2.3～9)	3 合成高分子系ルーフィングシート防水	防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
	20 耐火被覆	(7.9.2～8)		2 コンクリートブロック塀壁及び塀	2 改質アスファルトシート防水		(9.3.2、3)(表 9.3.1～3)	4 塗膜防水		(9.5.3)(表 9.5.1、2)	
21 アンカーボルトの設置等	22 軽量形鋼構造	(7.10.3)	3 A L C パネル	4 押出成形セメント板 (ECP)	(8.4.2～5)	2 改質アスファルトシート防水	(9.3.2、3)(表 9.3.1～3)	4 塗膜防水	(9.5.3)(表 9.5.1、2)	防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										5 ケイ酸質系塗布防水	(9.6.4)(表9.6.1)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
										防水層の種類	(9.4.2～4)(表 9.4.1～3)
	</										

[illegible]



「志摩市 都市計画基本図（白図）」を加工して作成
A3出力時において、縮尺1/2500

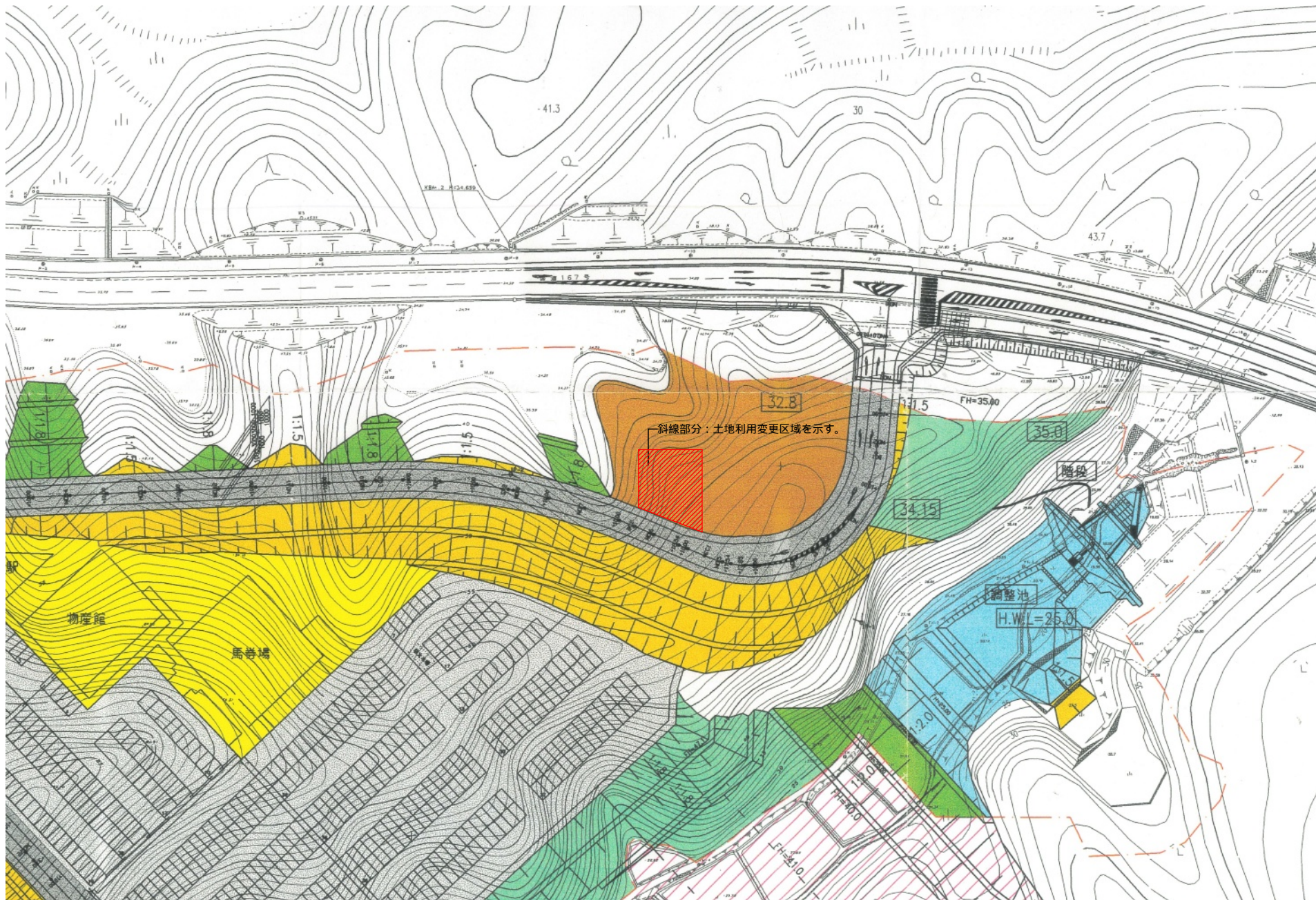
付近見取図



排水計画(雨水)
本工事の切土及び盛土による傾斜の変更は軽微である。
又、舗装等による影響についても、十分な未舗装部分と開発地境界には側溝が埋設されており、
開発地以外への影響は無い考えられる。

道路斜線制限の検討
(地盤高さ + 建物高さ)
1,220+4,310.7=5,530.7

道路幅員が9,020mmで建物高さ以上の幅員があることから、断面による道路斜線制限の検討は省略する。



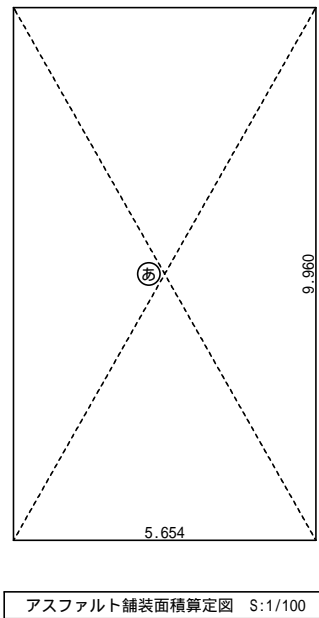
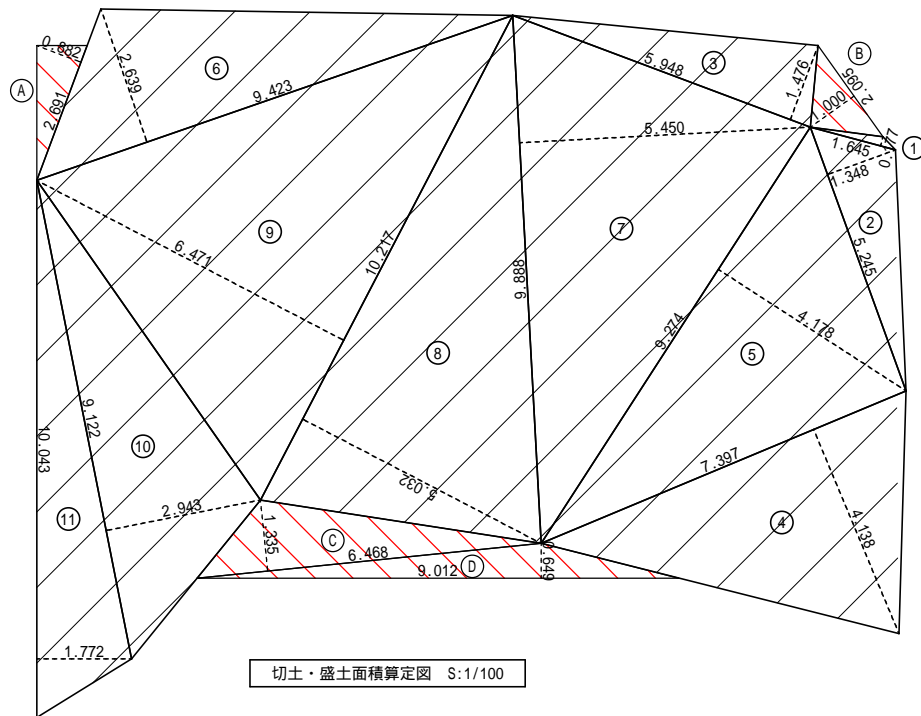
土地利用率表（変更前）

種 別	色 別	面積 (m ²)	割合 (%)	備 考
切土法面		9,807	12.3	
盛土法面		1,963	2.5	
緑地		5,054	6.3	
道路		5,808	7.3	斜線部は未舗装
駐車場		16,139	20.2	斜線部は未舗装
公園		2,539	3.2	
複合施設用地		4,239	5.3	
調整池		2,756	3.5	
残置森林他		31,424	39.4	
残土処分場		----	---	開発区域外
合 計		79,729	100.0	

土地利用率表（変更後）

種 別	色 別	面積 (m ²)	割合 (%)	備 考
切土法面		9,807	12.3	
盛土法面		1,963	2.5	
緑地		5,054	6.3	
道路		5,808	7.3	斜線部は未舗装
駐車場		16,139	20.2	斜線部は未舗装
公園		2,197.16	2.8	
複合施設用地		4,239	5.3	
調整池		2,756	3.5	
残置森林他		31,424	39.4	
残土処分場		----	---	開発区域外
合 計		79,729	100.0	

防災倉庫建設用地		341.84	0.4	
----------	--	--------	-----	--



切土面積（設計GL迄）		
記号	計算式(m)	倍面積(m ²)
1	1.645 × 0.177	0.291165
2	5.245 × 1.348	7.070260
3	5.948 × 1.476	8.779248
4	7.397 × 4.138	30.608786
5	9.274 × 4.178	38.746772
6	9.423 × 2.639	24.867297
7	9.888 × 5.450	53.889600
8	10.217 × 5.032	51.411944
9	10.217 × 6.471	66.114207
10	9.122 × 2.943	26.846046
11	10.043 × 1.772	17.796196
倍面積合計		326.421521
合計面積		163.21

鉤取面積（舗装用）		
記号	計算式(m)	面積(m ²)
あ	5.654 × 9.960	56.313840
合計面積		56.31

盛土面積		
記号	計算式(m)	倍面積(m ²)
A	2.691 × 0.882	2.373462
B	2.095 × 1.000	2.095000
C	6.468 × 1.335	8.634780
D	9.012 × 0.649	5.848788
倍面積合計		18.952030
合計面積		9.48

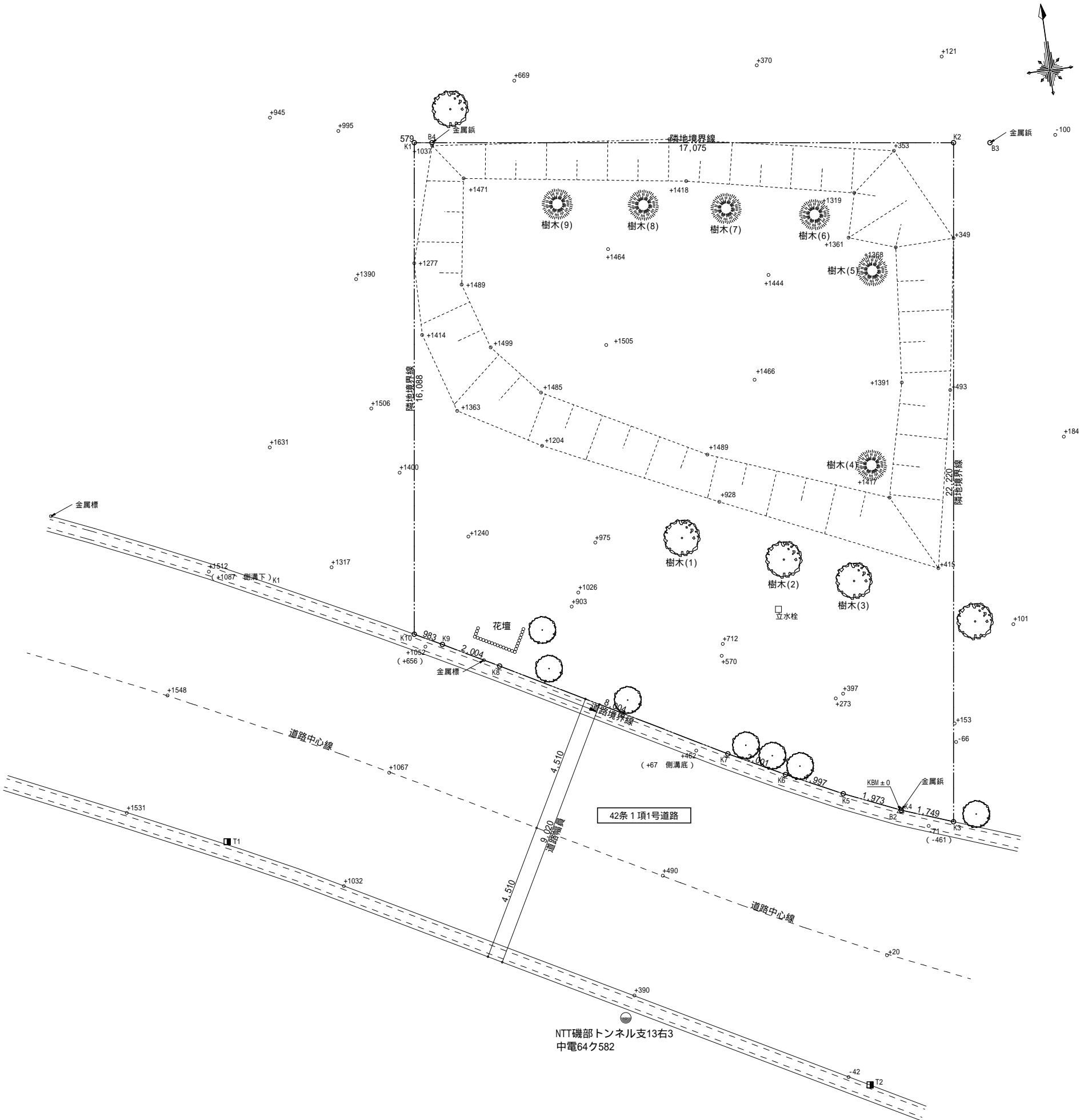
切土深さ検討表
計算を簡略化する為、切土深さを全て300mmとして算定する。
設計GL迄の切土 163.21m² × 0.3 = 48.963m³
計算を簡略化する為、鉤取り深さを全て200mmとして算定する。
舗装用鉤取り 56.31m² × 0.2 = 11.262
(48.963 + 11.262) / 341.84 = 0.177
0.177 < 0.30 開発行為に該当しない。

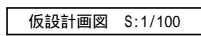
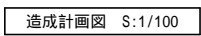
盛土高さ検討表
計算を簡略化する為、盛土高さを全て300mmとして算定する。
9.48m² × 0.3 = 2.844m³
2.844 / 341.84 = 0.0083m
0.009 < 0.30 開発行為に該当しない。

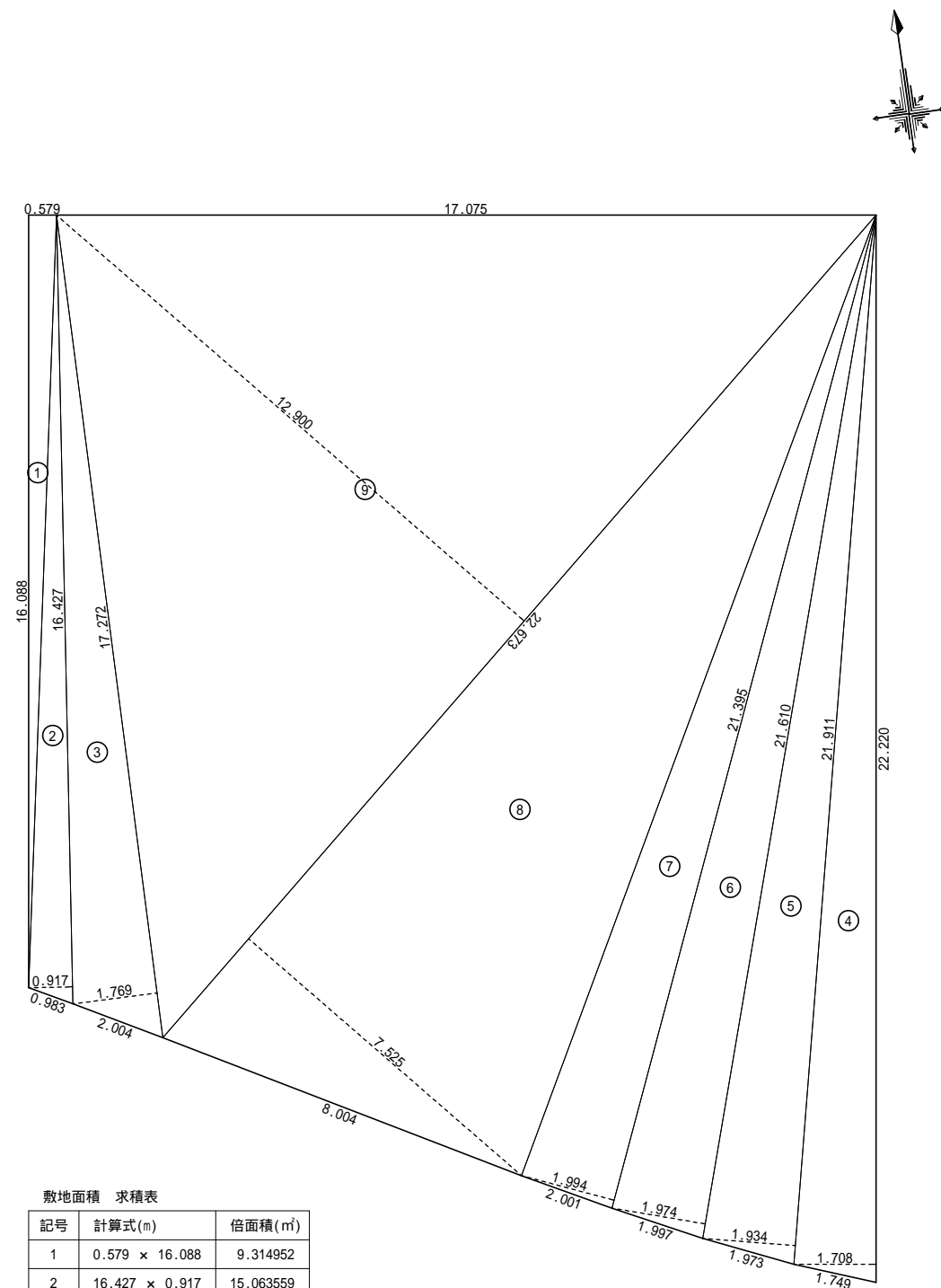
排水計画については、変更無し

順 号	幹周 (cm)	枝幅 (m)	樹高 (m)	20cm未満 (本)	20cm以上 30cm未満 (本)	30cm以上 60cm未満 (本)	60cm以上 90cm未満 (本)	90cm以上 120cm未満 (本)	120cm以上 (本)	移植 (隣地50m以内)
1	40	1.5	1.7			1				無し
2	60	1.5	3.0			1				無し
3	25	0.9	1.0		1					無し
4	40	1.0	3.0			1				有り
5	40	1.0	4.0			1				有り
6	40	1.0	3.5			1				有り
7	40	1.0	3.5			1				有り
8	40	1.0	3.2			1				有り
9	40	1.0	3.2			1				有り
合 計										

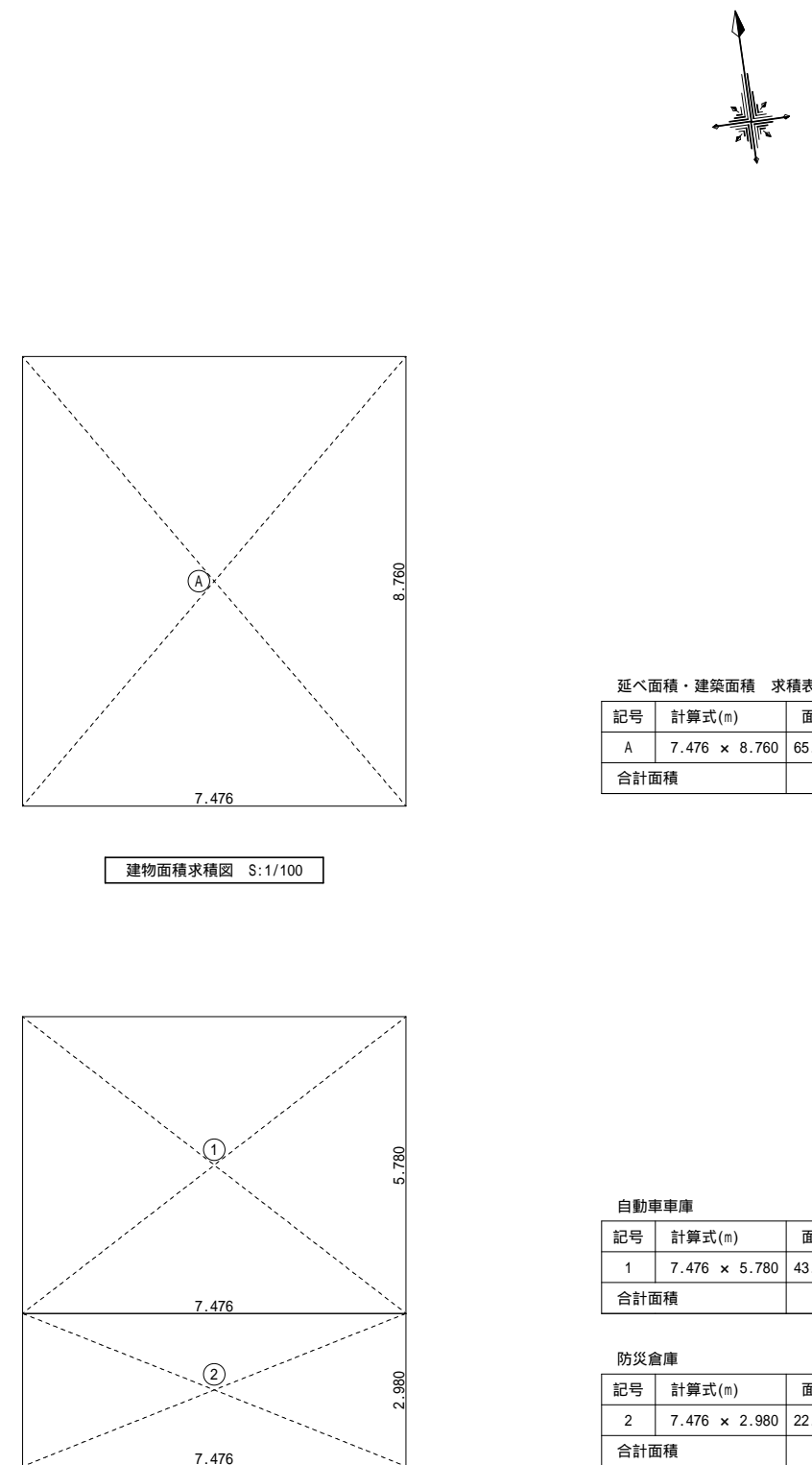
敷地測量 座標			
点 名	X 座 標	Y 座 標	備 考
T1	0	0	金 属 鈹
T2	21,050	-7,958	金 属 鈹
B2	22,046	1,014	金 属 鈹
B3	24,976	22,876	金 属 鈹
B4	6,704	22,876	金 属 鈹
K1	6,125	22,876	
K2	23,779	22,876	
K3	23,779	656	
K4	22,071	1,032	
K5	20,174	1,569	
K6	18,279	2,201	
K7	16,396	2,877	
K8	8,924	5,747	
K9	7,049	6,453	
K10	6,125	6,788	



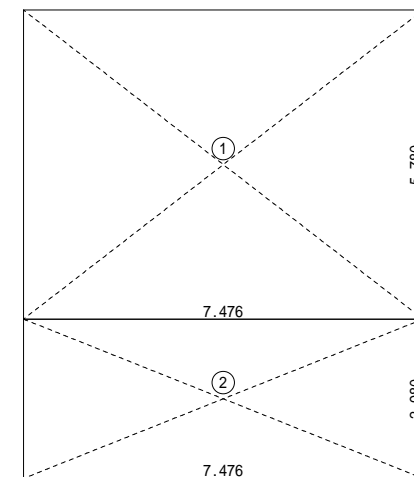




記号	計算式(m)	倍面積(m ²)
1	0.579 × 16.088	9.314952
2	16.427 × 0.917	15.063559
3	17.272 × 1.769	30.554168
4	22.220 × 1.708	37.951760
5	21.911 × 1.934	42.375874
6	21.610 × 1.974	42.658140
7	21.395 × 1.994	42.661630
8	22.673 × 7.525	170.614325
9	22.673 × 12.900	292.481700
倍面積合計		683.676108
合計面積		341.84

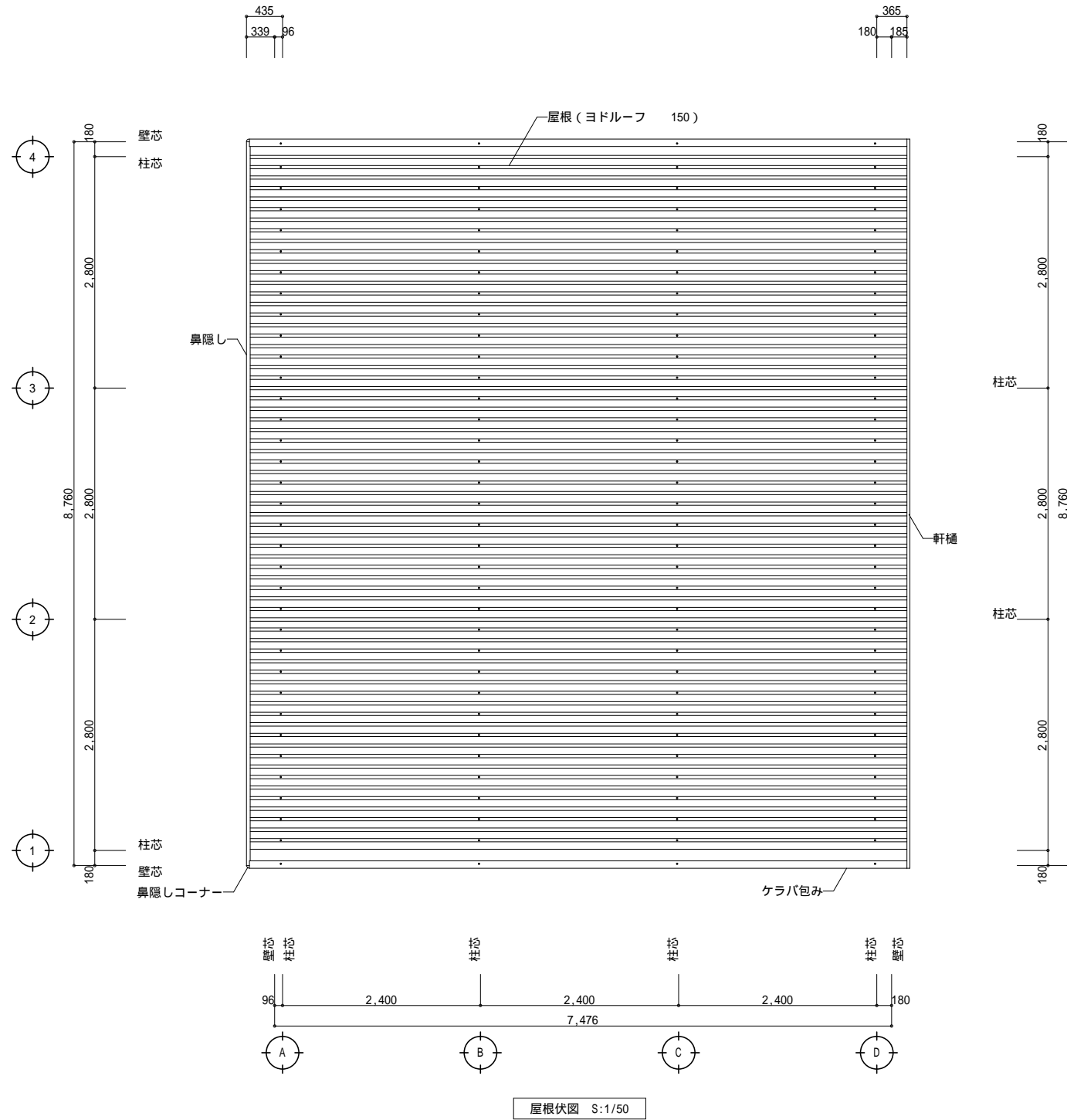
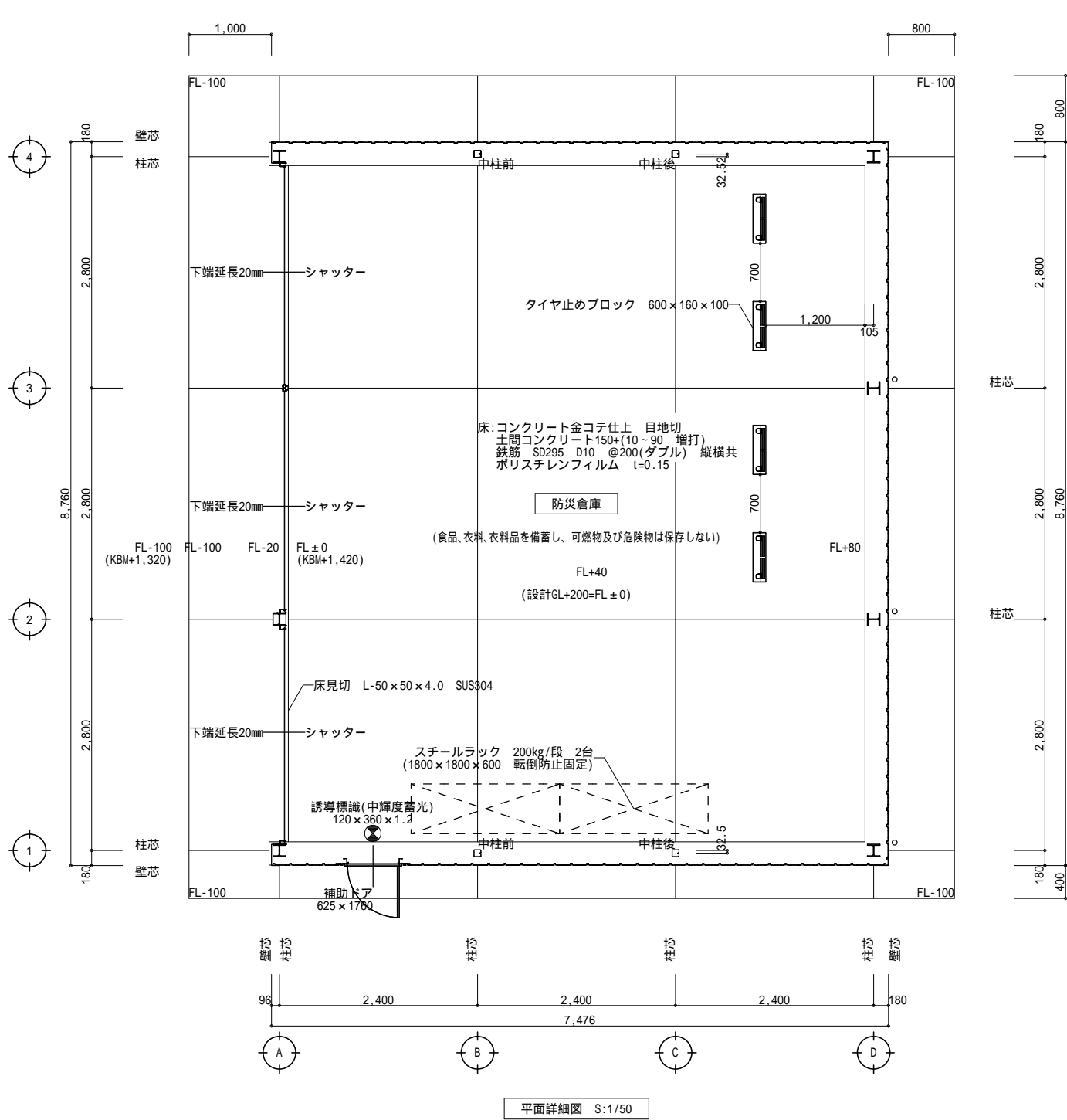


記号	計算式(m)	面積(m ²)
A	7.476 × 8.760	65.489760
合計面積		65.49

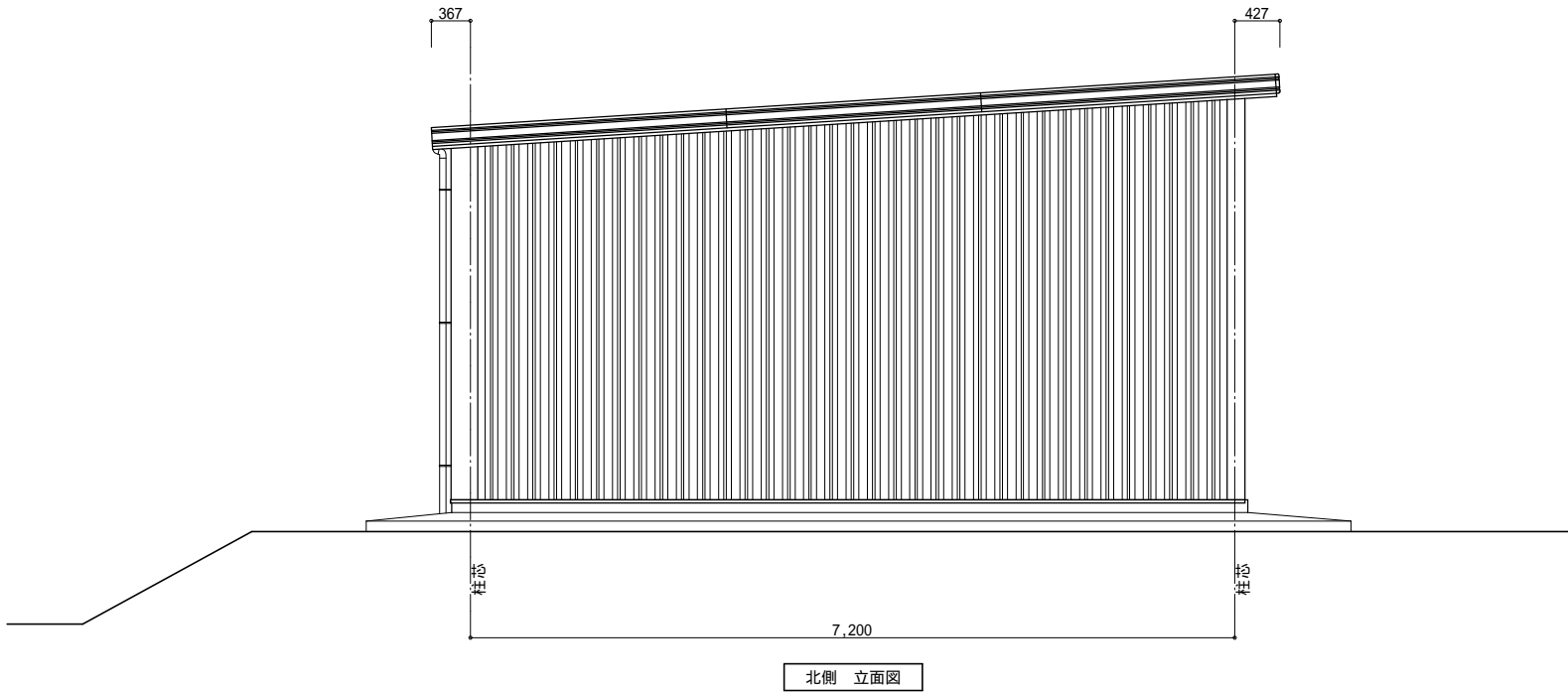


記号	計算式(m)	面積(m ²)
1	7.476 × 5.780	43.211280
合計面積		43.21

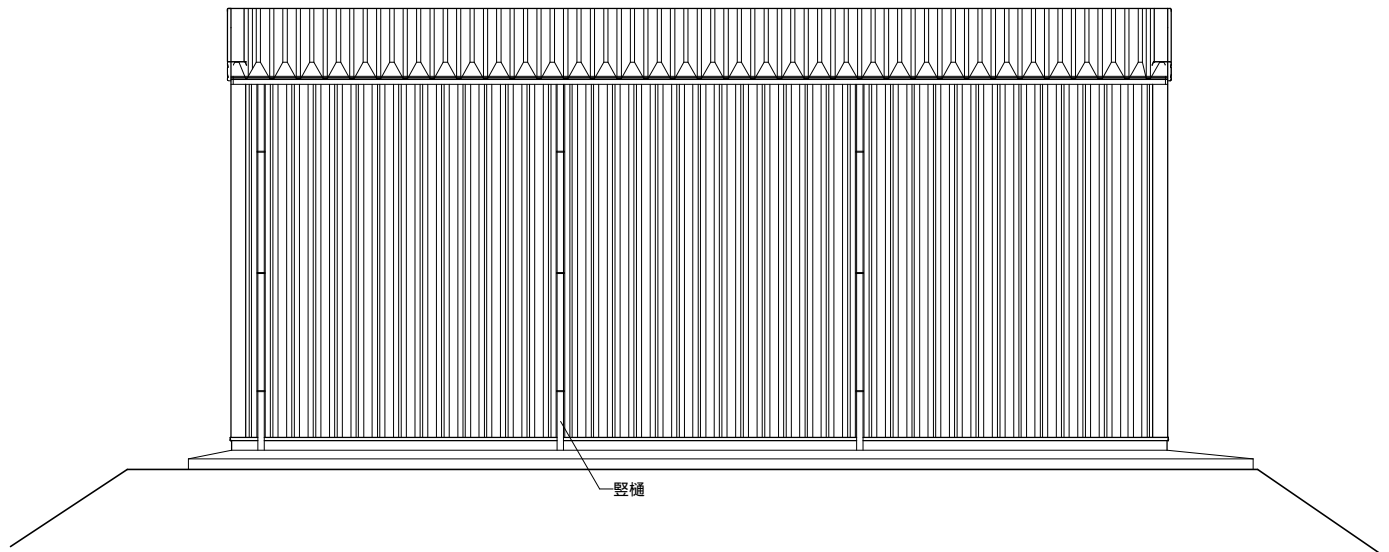
記号	計算式(m)	面積(m ²)
2	7.476 × 2.980	22.278480
合計面積		22.28



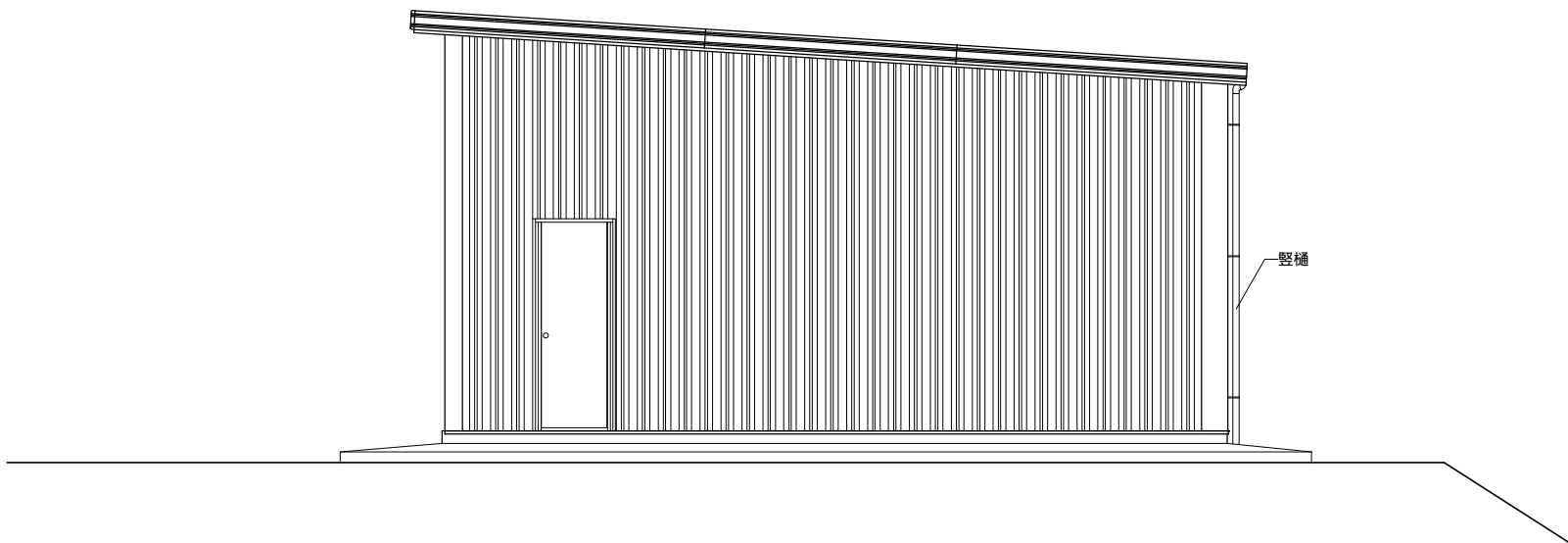
参考品番 榎淀川製鋼所 LP-5974-15型



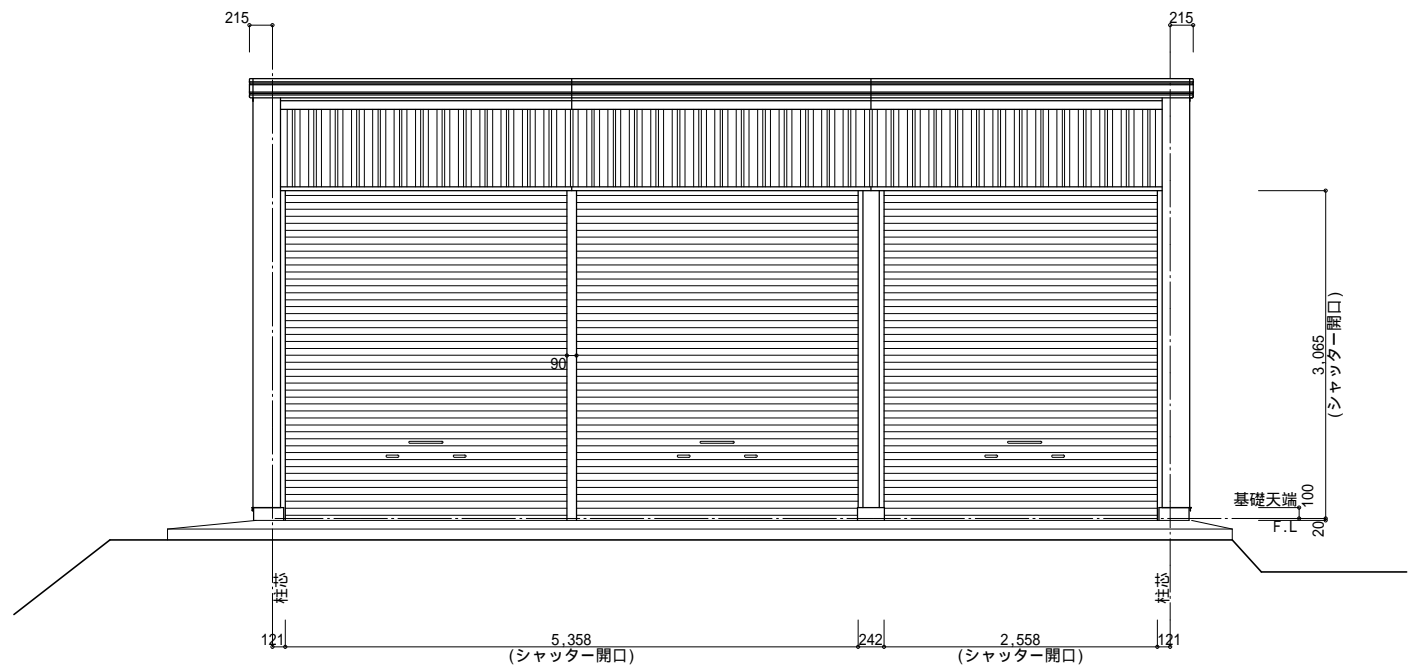
北側 立面図



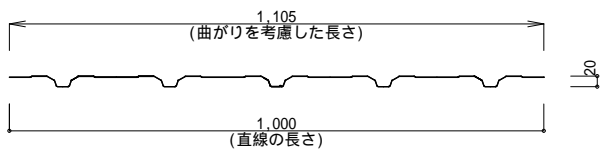
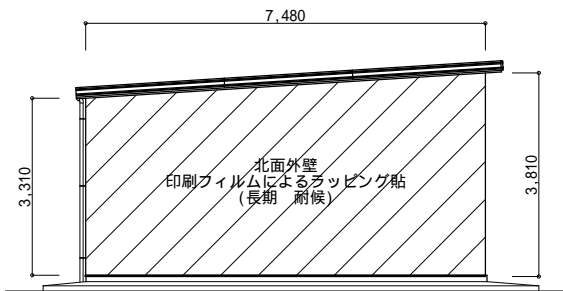
東側 立面図



南側 立面図

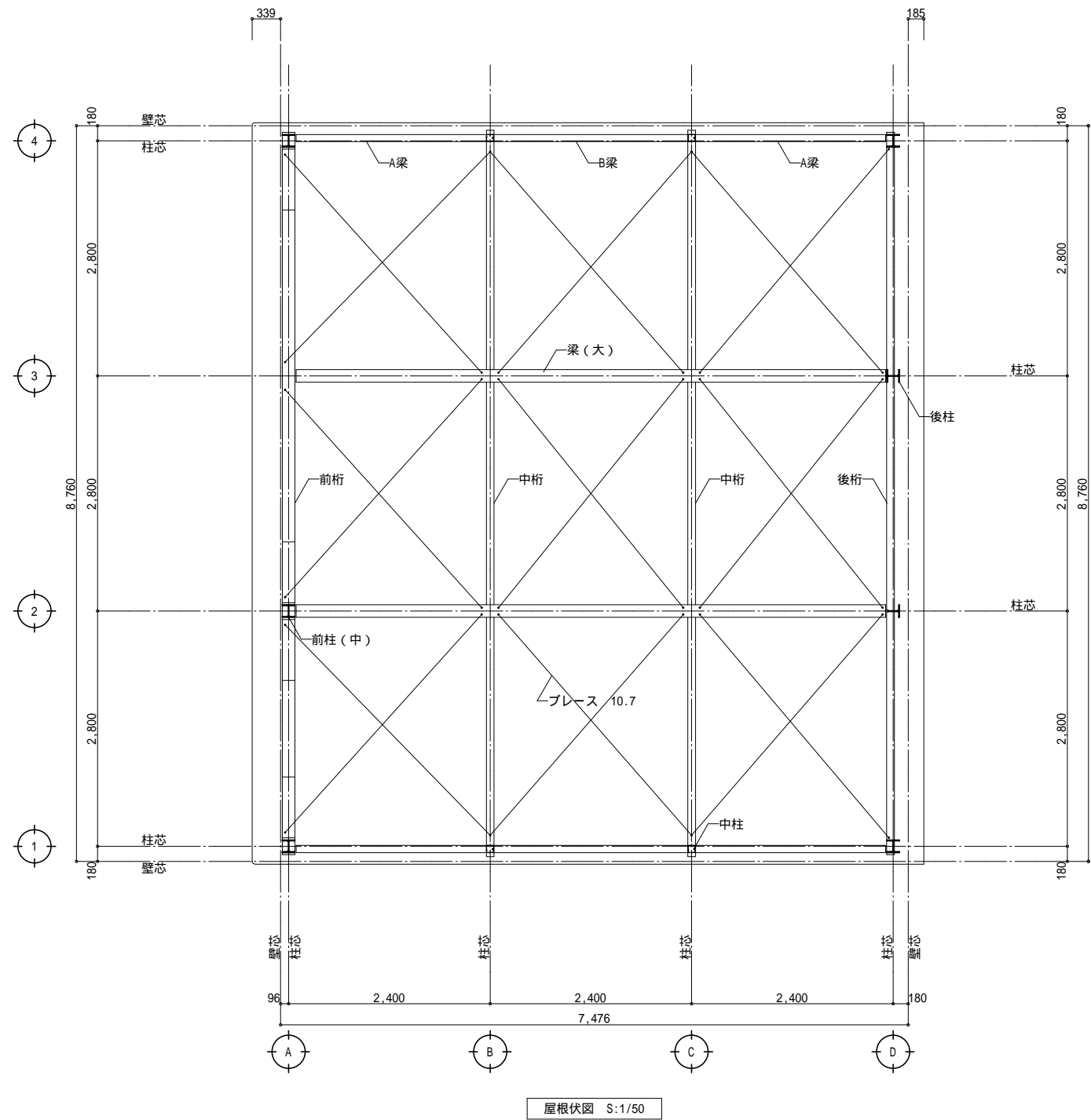
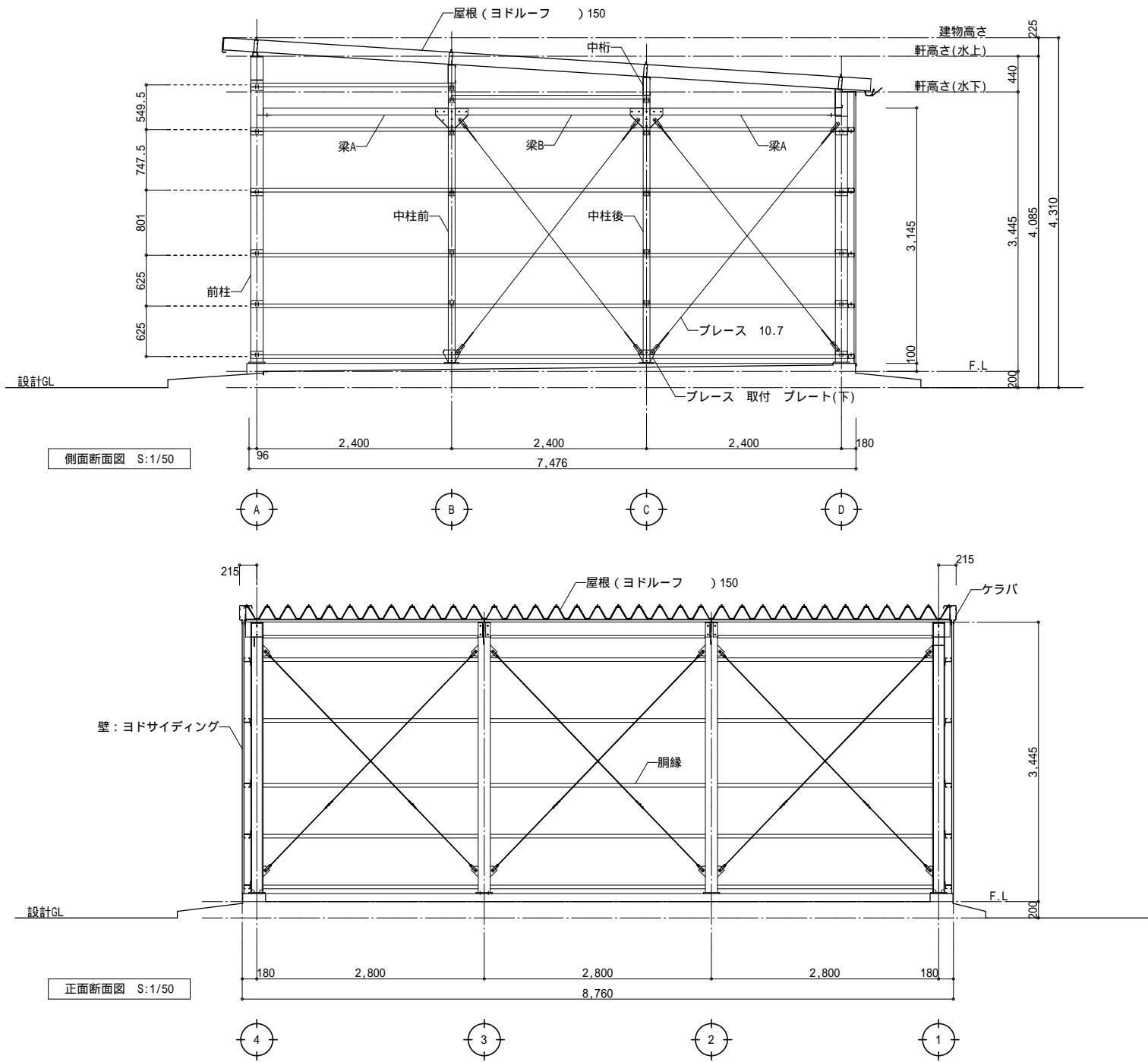


西側 立面図



外壁形状 S:1/10

参考品番 株式会社製鋼所 LP-5974-15型



構造耐力上主要な部分の部材

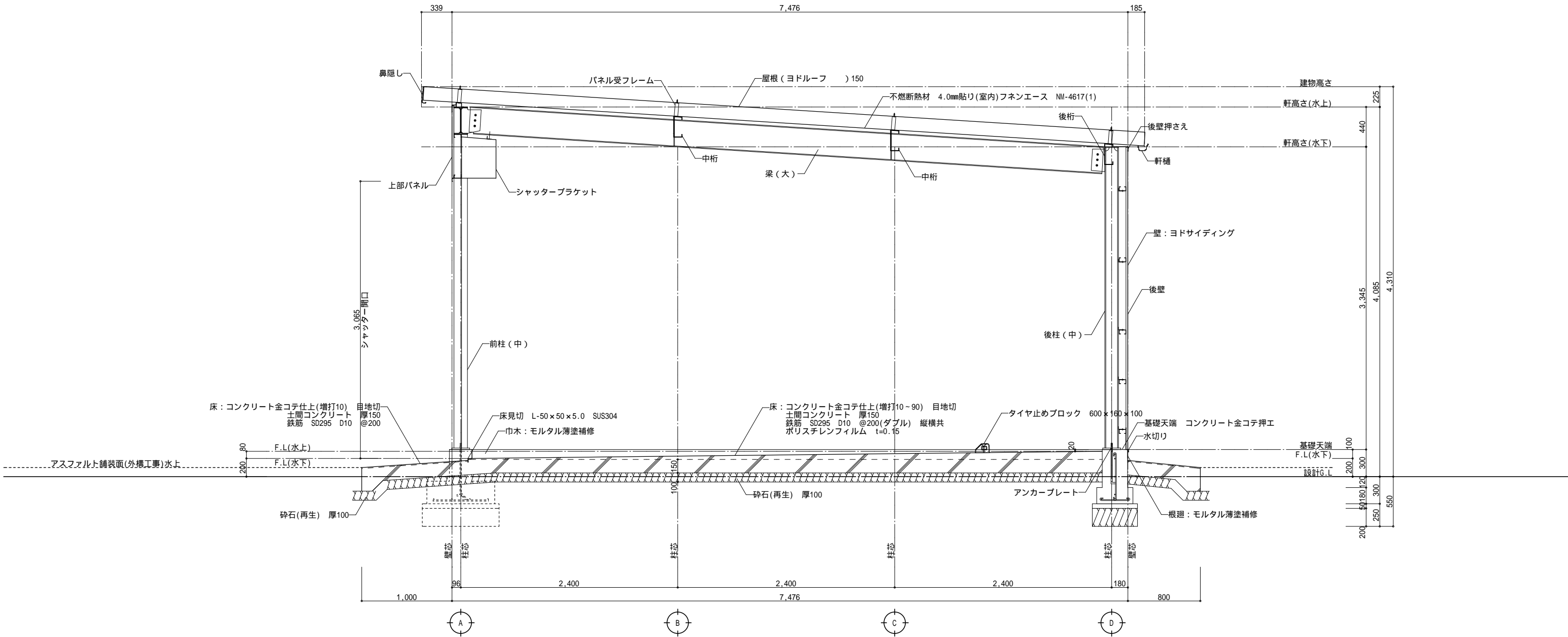
部材表	形状	板厚	使用材料	有効細長比
柱	150x150x7x10	-	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材	107
中柱	85 x 85	2.3mm	塗装溶融亜鉛めっき鋼板	122
梁 (大)	300x150x6.5x9	-	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材	-
梁	85 x 85	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	-
桁 (前)	300x150x6.5x9	-	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材	-
桁 (中)	230 x 92 x 25	2.3mm	塗装溶融亜鉛めっき鋼板	-
桁 (後)	230 x 92 x 25	2.3mm	塗装溶融亜鉛めっき鋼板	-
ブレース	-	10.7	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材 SS400	-
ターンバックル	-	10.7 用	JIS A5541 建築用ターンバックル鋼 STK1400	-
アンカープレート	-	9.0mm	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材	-

構造耐力上主要な部分以外の部材

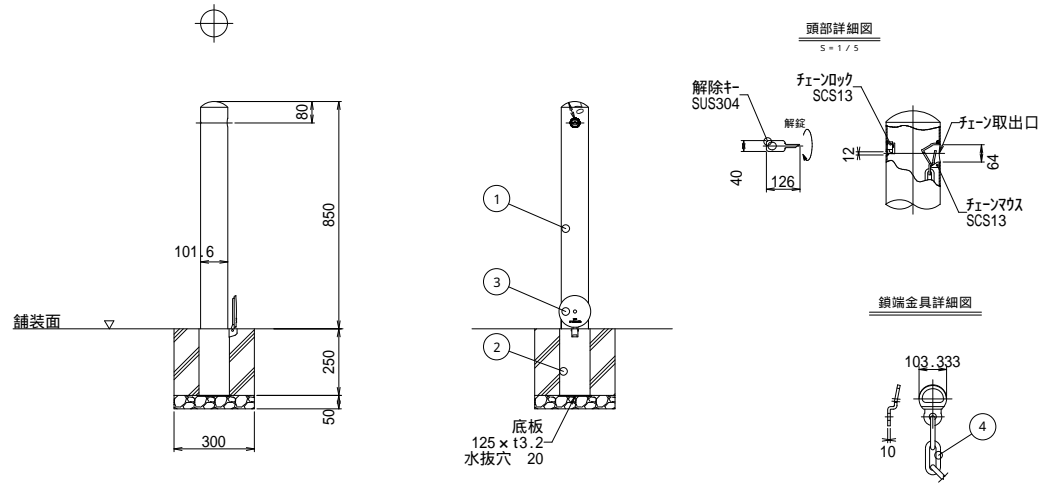
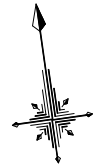
部材表	形状	板厚	使用材料
胴縁	75 x 45 x 15	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
屋根	ヨドルーフ150 不燃断熱材 4.0mm貼り	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLOC
壁	ヨド角波サイディング800N型 ケミカル面戸付き	0.4mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLOC
鼻隠し・ケラバ	-	0.6mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLOC
シャッター	-	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLOC
上部パネル	ヨド角波サイディング800N型	0.4mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLOC
トイ	-	-	PVC

石綿等の規制：石綿その他の著しく衛生上有害なものとして政令で定める物質を添加した材料を使用しない。

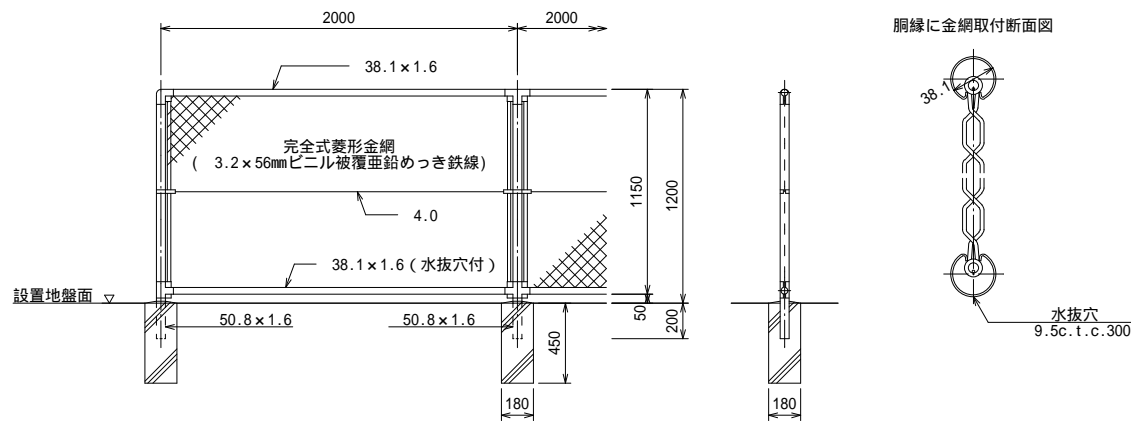
参考品番 榎淀川製鋼所 LP-5974-15型



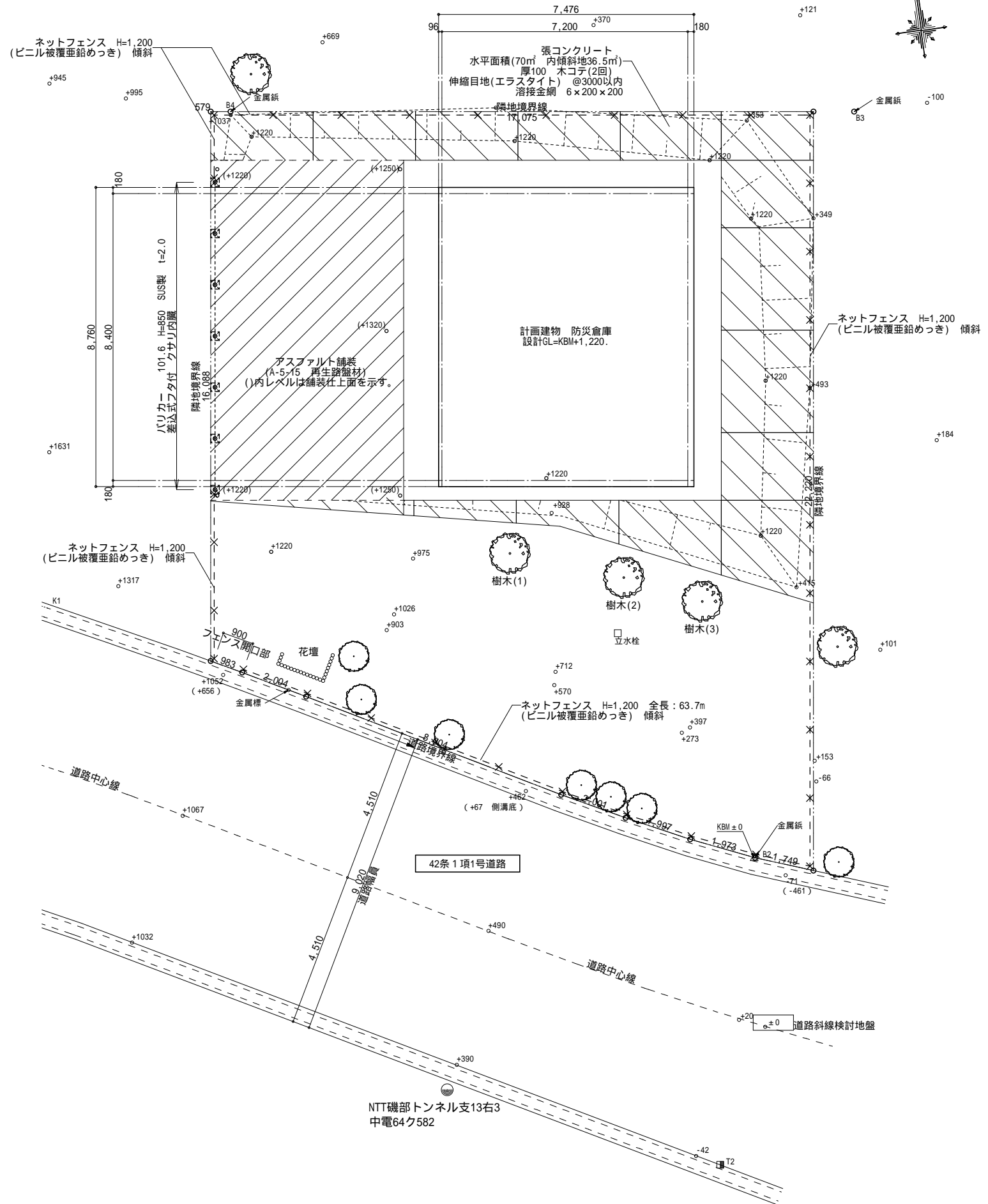
参考品番 榎淀川製鋼所 LP-5974-15型



参考品番：機サンボール PA-11SFC 7箇所(9.0m)					
番号	品名	数量	材質	備	考
4	クサリ・クサリ端金具	1	ステンレス SUS304	5×2M	支柱間ピッチ
3	差込スリーブ蓋	1	ステンレス鋳物 SCS13	119	
2	差込スリーブ	1	鋼管 STK400	114.3×t3.5	溶融亜鉛メッキ
1	パイプ	1	ステンレス SUS304	101.6×t2.0	#400



参考品番：朝日スチール工業株式会社 PC-A1200
傾斜地仕様



IV 考察

本調査地は、志摩半島丘陵地の中腹部に立地し、旧造成によって盛土された地盤と推測される。

調査データによると、土質や締り方のルーズな盛土が地表を覆い、その下に、締りの良い礫質土層が分布し構成されているものと推測される。

KBM+0.77mを砕石底とした場合、概ね締りの良い礫質土層が分布する事によって、布基礎による直接基礎形式の採用が望ましいと推測されます。

なお、掘削時の土質確認や、砕石厚の調整等、建築物の自重による沈下その他の地盤の変形等を考慮して有害な損傷、変形及び沈下が生じないように、基礎地盤に御配慮し、長期的な安定性を保持される事が望ましいと推測されます。参考までに、下表に地盤の種類に応じた許容地耐力を記す。

表 4.1 長期許容地耐力表

地盤	長期許容地耐力 (t/m ²) (kN/m ²)		備考	
	A値	N _{sw} 値		
土丹盤	30	300	30以上	
礫層	密実なもの	60	600	50以上
	密実でないもの	30	300	30以上
砂質地盤	密なもの	30	300	30~50
	中位	20	200	20~30
	ゆるい	10	100	10~20
	非常にゆるい	5	50	5~10
粘土質地盤	非常に硬い	3以下	30以下	5以下
	硬い	20	200	15~30
	中位	10	100	8~15
	軟らかい	5	50	4~8
	非常に軟らかい	3	30	2~4
開東ローム	硬い	2以下	20以下	# _{sw} 100以下
	やや硬い	15	150	5以上
	軟らかい	10	100	3~5
		5以下	50以下	# _{sw} 100以下

「小規模建築物基礎設計の手引き」日本建築学会編 P36に一部加筆

以上の結果を参考として、支持地盤・基礎工法の最終決定の際には、経済性・施工性・安全性等を十分考慮し、適切な基礎工法を採用することが望まれる。

スクリーウエイト貫入試験											
調査名						防災道の駅整備事業建築工事地質調査		測点番号		1	
調査場所						三重県志摩市磯部町穴六川地内		調査年月日		2022年10月22日	
孔口標高						KBM +1.48 m		最終貫入深さ		1.12 m	
孔内水位						無		天候		晴れのち曇り	
試験者						家田 金森					
備 考											
荷重 Wsw (kN)	平均 圧縮 D (mm)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当りの 平均圧縮 N _{sw}	記 事		判定 状況	荷重 Wsw(kN)	貫入量 1m 当りの 平均圧縮 N _{sw}	換算 N 換	許容 支持力 q _a kN/m ²
1.00	6.0	0.25	25	24	ジャリジャリ	硬土/砂質土	×	1.00	3.6	44.4	
1.00	2.0	0.50	25	8	ジャリジャリ	粘土/砂質土	×	1.00	2.5	34.8	
1.00	142.0	0.75	25	568	ガリガリ	硬質土	×	1.00	40.0	> 120	
1.00	169.0	1.00	25	676	ガリガリ	硬質土	×	1.00	47.2	> 120	
1.00	147.0	1.12	12	1225	ジャリジャリ	硬質土	×	1.00	84.0	> 120	

スクリーウエイト貫入試験										
調査名					測点番号					
防災道の駅整備事業建築工事地質調査					3					
調査場所					調査年月日					
三重県志摩市磯部町穴川地内					2022年10月22日					
孔口標高					最終貫入深さ					
KBM +1.51 m					0.85 m					
孔内水位					試験者					
無					家田 金森					
備考										
荷重 Wsw (kN)	平均 板数 (Na)	貫入深さ D (cm)	貫入量 L (cm)	1m当りの 平均板数 Nsw	記 事		判定 状況	荷重 Wsw(kN)	貫入量 1m 当りの 平均板数 Nsw	許容 支持力 q _a (kN/m ²)
					内巻・地盤	貫入状況	二貫名			
1.00	5.0	0.25	25	20			粘土/砂質土	×	4.0	42.0
1.00	3.0	0.50	25	12			粘土/砂質土	×	3.6	37.2
1.00	87.0	0.75	25	348	ジャリジャリ	打撃6~10回	硬質土	×	25.3	> 120
1.00	157.0	0.85	10	1570	ジャリジャリ	打撃21回以上	硬質土	×	107.1	> 120

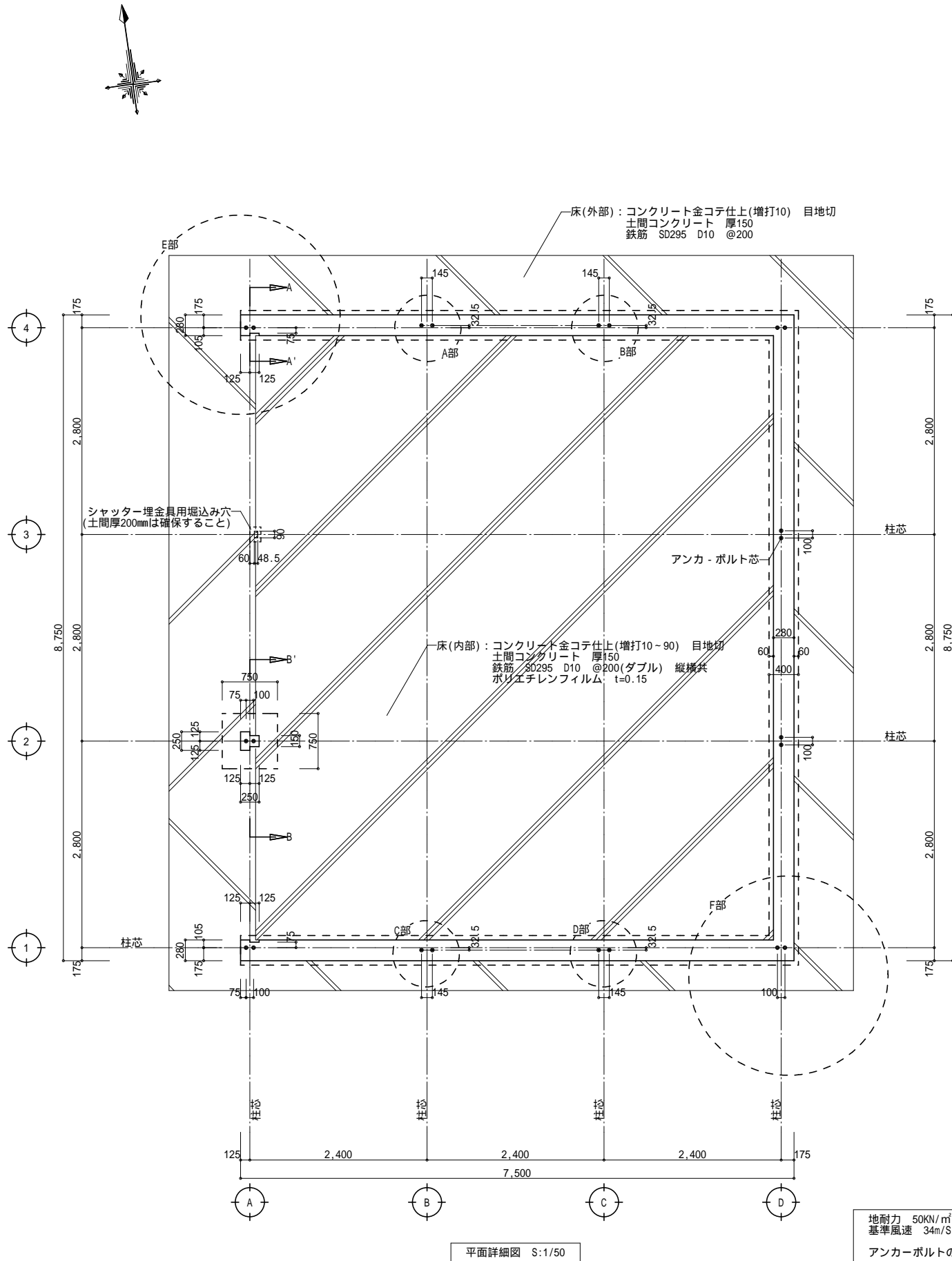
スクリーウエイト貫入試験											
調 査 名					測点番号						
防災道の駅整備事業建築工事地質調査					6						
調査場所					調査年月日						
三重県志摩市磯部町穴川地内					2022年10月22日						
孔口標高					最終貫入深さ						
KBM +1.44 m					1.42 m						
孔内水位					試 験 者						
無 天 候 晴れのち曇り					家田 金森						
備 考											
荷重 Wsw (kN)	平均 圧縮 D (mm)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当りの 平均圧縮 N _{sw}	記 事		判定 状況	荷重 Wsw(kN)	貫入量 1m 当りの 平均圧縮 N _{sw}	換算 圧強 q _a (kN/cm ²)	許容 支持力 q _a (kN/cm ²)
1.00	16.0	0.25	25	64	ジャリジャリ	粘土/砂質土	×	1.00	6.2	68.4	68.4
1.00	6.0	0.50	25	24	ジャリジャリ	粘土/砂質土	×	1.00	3.6	44.4	44.4
0.75	0.0	0.75	25	0		粘土/砂質土	×	1.00	2.2	—	—
1.00	83.0	1.00	25	332	ガリガリ	打撃6~10回	×	1.00	24.2	> 120	> 120
1.00	73.0	1.25	25	292	ガリガリ		×	1.00	21.5	> 120	> 120
1.00	127.0	1.42	17	747	ガリガリ	打撃10~20回	×	1.00	52.0	> 120	> 120

スクリーウエイト貫入試験										
調査名					測点番号					
調査場所					調査年月日					
孔口標高					最終貫入深さ					
孔内水位					試験者					
備考										
荷重 Wsw (kN)	平均 圧縮 D (mm)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当りの 平均圧縮 N _{sw}	記 事		判定 状況	荷重 Wsw(kN)	貫入量 1m 当りの 平均圧縮 N _{sw}	許容 支持力 q _a (kN/m ²)
					富密・地盤	貫入状況	土質名			
1.00	4.0	0.25	25	16	ガリガリ		粘土・腐食土	×	3.0	39.6
1.00	8.0	0.50	25	32	ガリガリ		粘土・腐食土	×	4.1	49.2
0.75	0.0	0.75	25	0			粘土・腐食土	×	2.2	—
1.00	60.0	1.00	25	240	ガリガリ		硬質土	×	18.0	> 120
1.00	81.0	1.25	25	324	ガリガリ		硬質土	×	23.7	> 120
1.00	212.0	1.50	25	848	ガリガリ	打撃21回以上	硬質土	×	58.8	> 120
1.00	15.0	1.51	1	1500	ガリガリ		硬質土	×	102.5	> 120

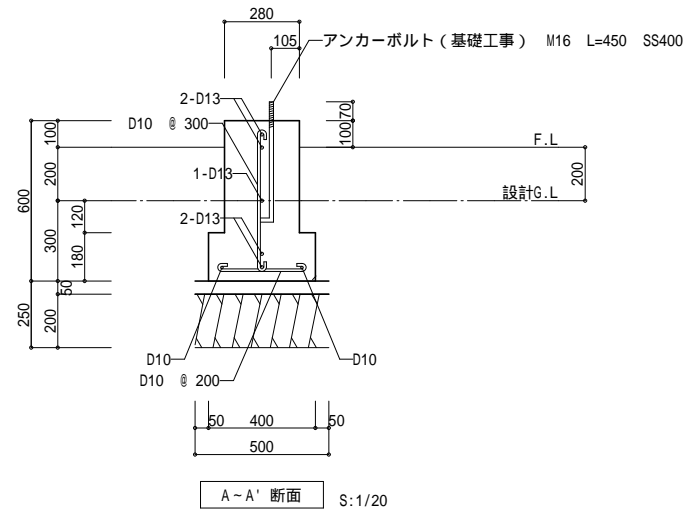
スクリーウエイト貫入試験										
調査名 防災道の駅整備事業建築工事地質調査						測点番号 4				
調査場所 三重県志摩市磯部穴川地内						調査年月日 2022年10月22日				
孔口標高 KBM +1.46 m						最終貫入深さ 0.96 m				
孔内水位 無		天候 晴れのち曇り		試験者 家田 金森						
備考										
記 事										
荷重 Wsw (kN)	平均 断面积 (Na)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当りの 平均圧縮 Nsw	地質・地層 貫入状況 土質名	判定 状況	荷重 Wsw(kN)	貫入量 1m 当りの 平均圧縮 Nsw	換算 N値 標準 偏差	許容 支持力 q _a kN/m ²
1.00	0.0	0.25	25	0	低土/粘性土		1.00	3.0	—	—
0.50	0.0	0.50	25	0	低土/粘性土		1.00	1.5	—	—
1.00	51.0	0.75	25	204	ジャリジャリ 打撃3回		1.00	15.6	> 120	> 120
1.00	120.0	0.96	21	571	ジャリジャリ 打撃10~20回		1.00	40.2	> 120	> 120

スクリーウエイト貫入試験											
調査名					防災道の状態備事業建築工事地質調査		測点番号		5		
調査場所					三重県志摩市磯部町穴川地内		調査年月日		2022年10月22日		
孔口標高					KBM +1.48 m		最終貫入深さ		1.40 m		
孔内水位					無	天候	晴れのち曇り		試験者	家田 金森	
備考											
荷重 Wsw (kN)	平均 圧縮 D (mm)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m当りの 平均圧縮 Nsw	記 事		判定 状況	荷重 Wsw(kN)	貫入量 1m 当りの 平均圧縮 Nsw	換算 N 値	許容 支持力 q _a kN/m ²
0.75	0.0	0.25	25	0	ジャリジャリ		粘土/砂質土	1.00	1.5	1.5	—
1.00	2.0	0.50	25	8			粘土/砂質土	1.00	2.5	2.5	34.8
1.00	2.0	0.75	25	8			粘土/砂質土	1.00	2.5	2.5	34.8
1.00	74.0	1.00	25	296	ジャリジャリ		砂質土	1.00	21.8	21.8	> 120
1.00	80.0	1.25	25	320	ガリガリ		硬質土	1.00	23.4	23.4	> 120
1.00	148.0	1.40	15	987	ガリガリ 打撃21回以上		硬質土	1.00	68.1	68.1	> 120

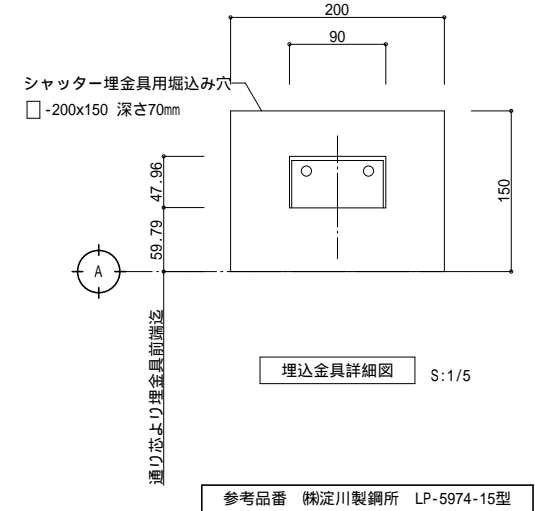
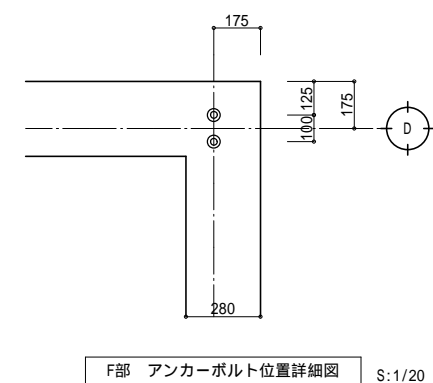
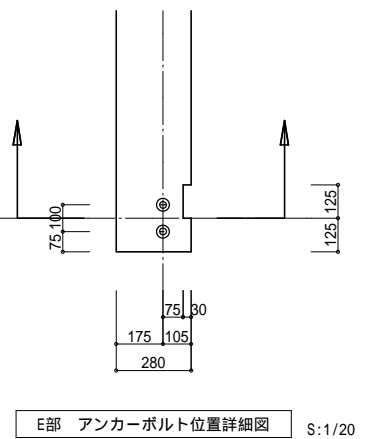
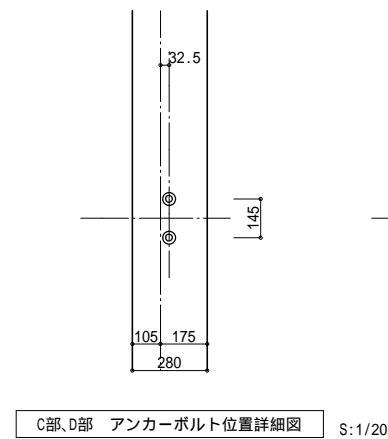
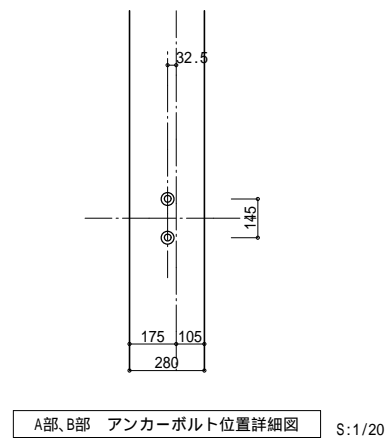
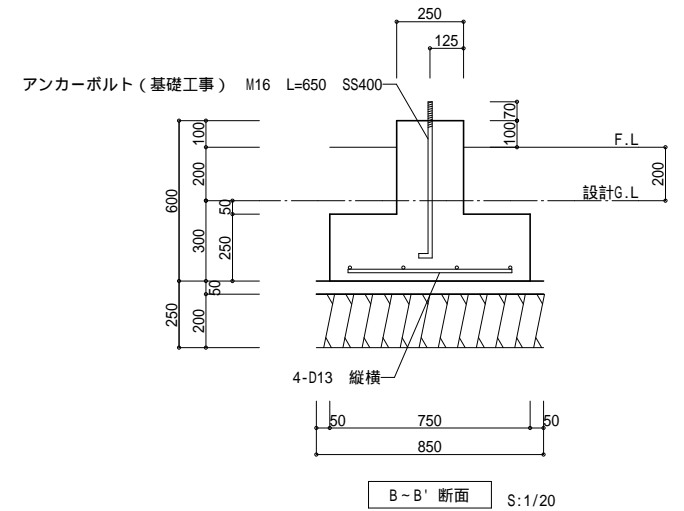
スクリーウエイト貫入試験											
調査名						測点番号					
調査場所						調査年月日					
孔口標高						最終貫入深さ					
孔内水位						試験者					
備考											
荷重 Wsw (kN)	平均 圧縮 D (mm)	貫入深さ D (m)	貫入量 L (cm)	1m 当りの 平均圧縮 N _{sw}	記 事		判定 状況	荷重 Wsw(kN)	貫入量 1m 当りの 平均圧縮 N _{sw}	許容 N 値	許容 支持力 q _a kN/m ²
					経過・直観	貫入状況					
1.00	1.0	0.25	25	4		粘土/粘土土	×		3.2	32.1	
1.00	0.0	0.50	25	0		粘土/粘土土	×		3.0	—	
0.75	0.0	0.75	25	0		粘土/粘土土	×		2.2	—	
1.00	92.0	1.00	25	368	ガリガリ	打撃3回	×		25.6	> 120	
1.00	111.0	1.25	25	444	ガリガリ	打撃6~10回	×		31.7	> 120	
1.00	159.0	1.38	13	1223	ジャリジャリ	打撃10~20回	×		83.9	> 120	



地耐力 50kN/m²以上 コンクリート設計基準強度 21N/mm²
基準風速 34m/S 地表面粗土区分
アンカーボルトの止結は、ダブルナット等の戻り止めを施す事。



地盤測定地(No.2 No6 No7)付近については、掘削時に軟弱層を除去の上、砕石厚さを調整すること。



5 基礎及び基礎梁の配筋

5.1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

- (a) 一般事項
- (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。
- (2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(a)(2)による。

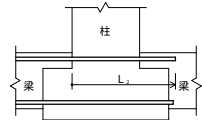
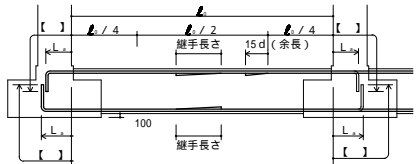


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする。

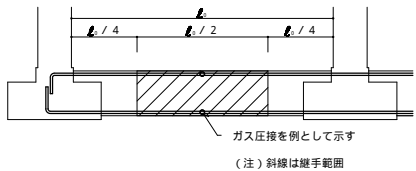
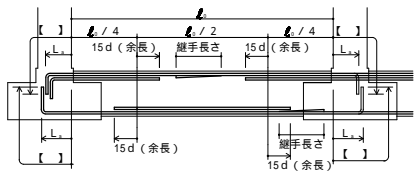


図5.2 主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長
(附圧スラブが付く場合は、(d)による。)



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする。

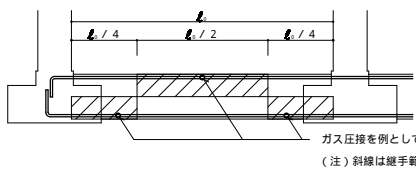
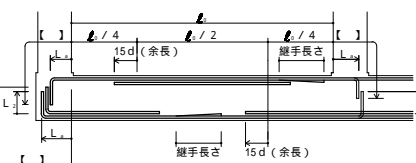


図5.3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



- (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする。

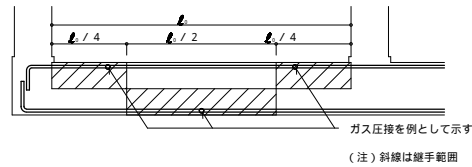


図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

5.2 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(a)による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

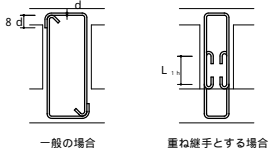
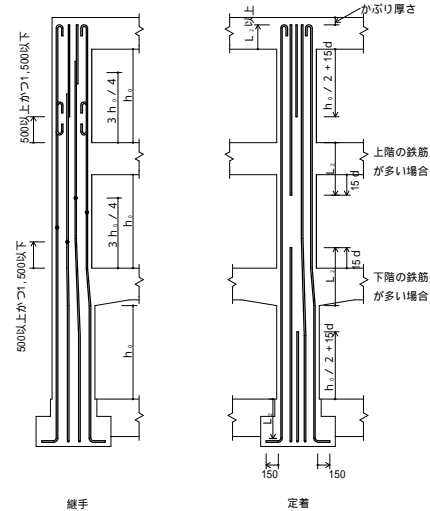


図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

6 柱の配筋

6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

- (a) 柱主筋の継手、定着及び余長の一般事項
- (1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_c/4$ (h_c は柱の内法高さ) 以下とする。
- (2) 継手、定着及び余長は図6.1による。ただし、柱頭定着長さ L_c を確保できない場合は構造図による。

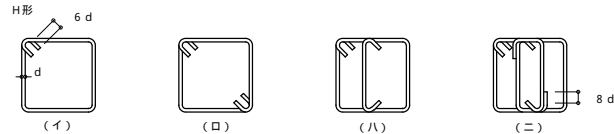


- (注) 1. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
2. 隣り合う継手の位置は、表3.2による。

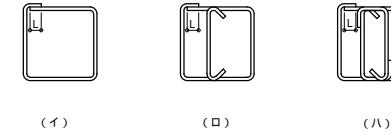
図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

6.2 帯筋組立の形及び割付け

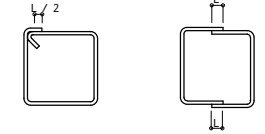
- (a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による



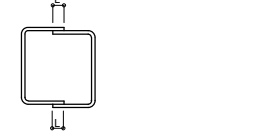
W形 (溶接を行う)



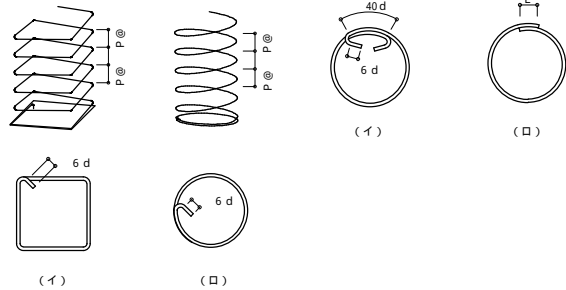
W形



W形



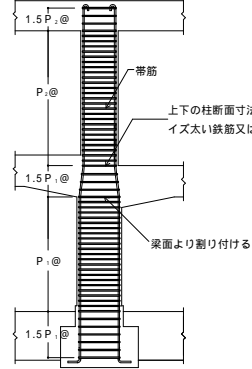
S P形 (スパイラル筋)



- (注) 1. フック及び継手の位置は、交互とする。
2. 溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
3. S P形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。
4. H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W形とする。

図6.2 帯筋組立の形

(b) 帯筋の割付けは、図6.3による。



- (注) 柱に取り付け梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁@または1.5P₂@とする範囲は2本の柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、P₁@、P₂@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.3 帯筋の割付け

6.3 柱の打増し部

土に接する柱周囲の打増しは図6.4による。

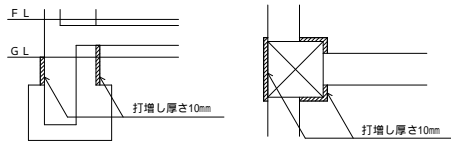


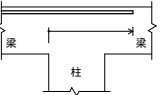
図6.4 柱打増し部

7 梁の配筋

7.1 大梁 (5.1基礎梁以外の大梁に限る) 主筋の継手、定着及び余長

- (a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

(1) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。



40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし直線定着長さのうち大きい値とする

図7.1 梁主筋の梁内定着

- (2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。なお、定着の方法は、3.1(b)(2)による。
- 上端筋：曲げ降ろす。
- 下端筋：原則として曲げ上げる。

(3) 段違い梁は、図7.2による。

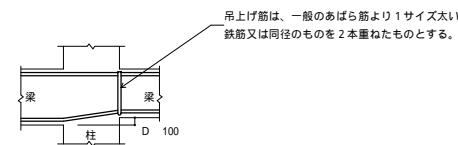
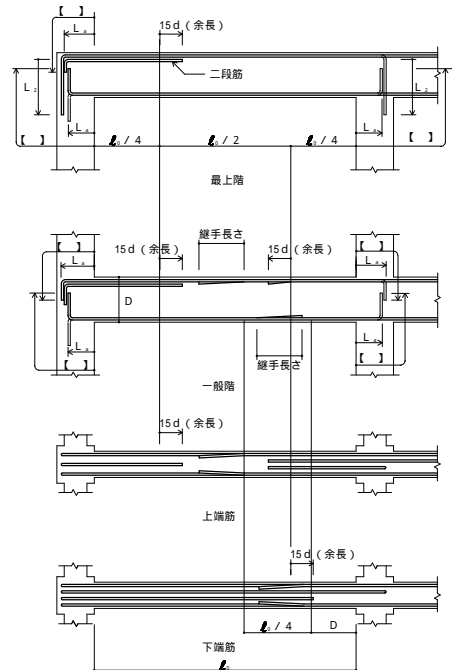


図7.2 段違い梁

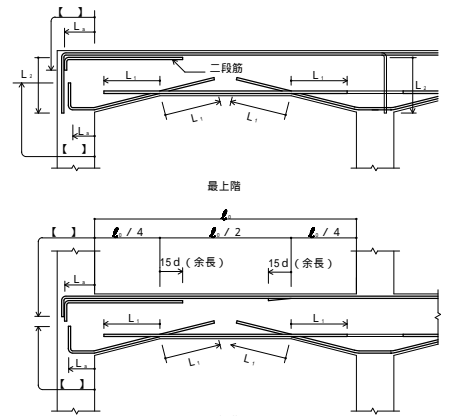
(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- (注) 1. 継手中心位置は次による。
- 上端筋：中央 $L_c/2$ 以内
- 下端筋：柱面より梁せいの(D)以上離し、 $L_c/4$ を加えた範囲以内
2. 「2.異形鉄筋の末端部(2)」で定めた鉄筋には、フックを付ける。
3. 印は、継手及び余長を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長

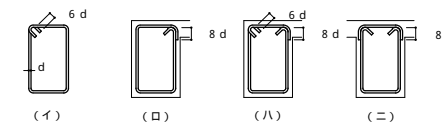


- (注) 1. 「2.異形鉄筋の末端部(2)」で定めた鉄筋には、フックを付ける。
2. 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のように引き通すことができる。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 40d (軽量コンクリートの場合は、50d) と表3.3のフックなし定着長さのうち大きい値とする

図7.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2 あばら筋 (5.2基礎梁のあばら筋以外に限る) の組立の形及び割付け等

- (a) あばら筋組立の形及びフックの位置



- (注) 1. (イ)形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
2. フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は床板の付く側を90°折り曲げとする。

図7.5 あばら筋組立の形

A-21

9.3 片持スラブの基準配筋

(a) 片持スラブの基準配筋は表9.2により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表9.2 片持スラブの基準配筋 (C5形)

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
C5 1	上 D13・100@ 下 D13・200@	C5 5	上 D10・200@ 下 D10・400@
C5 2	上 D13・150@ 下 D13・300@	C5 6	上 D10、D13・200@ 下 -
C5 3	上 D10、D13・150@ 下 D10、D13・300@	C5 7	上 D10・200@ 下 -
C5 4	上 D10、D13・200@ 下 D10・200@		

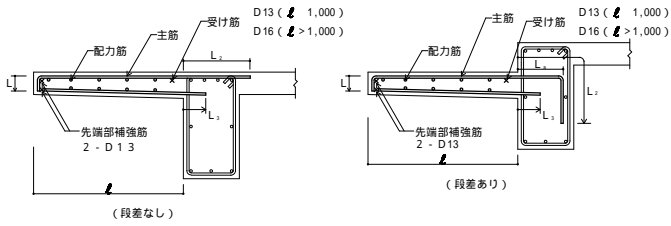


図9.4 片持スラブの配筋 (C5 1からC5 5)

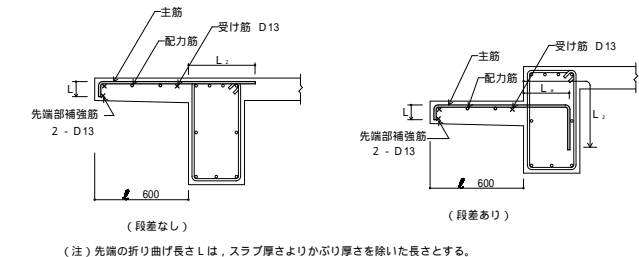


図9.5 片持スラブの配筋 (C5 6及びC5 7)

9.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋は図9.6による。

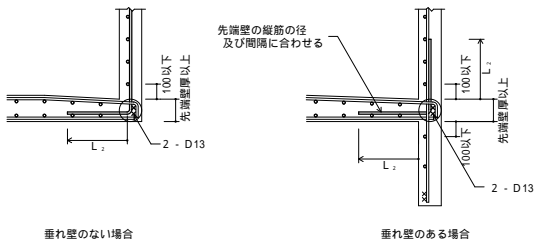


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

9.5 スラブの開口部の補強

スラブ開口部の補強及び定着方法は構造図による。ただし構造図において軽微な開口として特記されたものの開口補強については下記にすることができる。

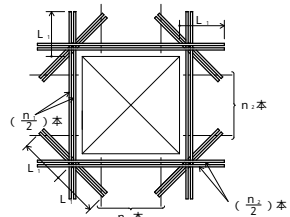


図9.7 スラブ開口部の補強配筋

9.6 出隅部及び入隅部の補強

(a) 屋根スラブの出隅及び入隅部

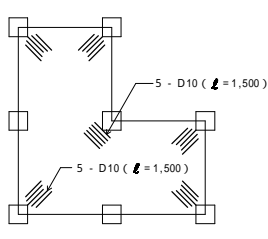


図9.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持スラブの出隅部

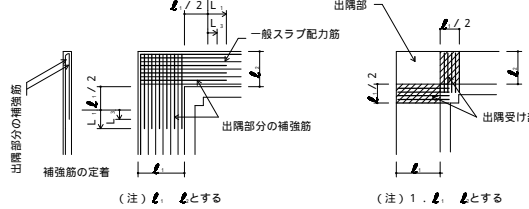


図9.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.7 スラブの打継ぎ補強等

(a) 土間スラブの打継ぎ補強 (基礎梁とスラブを一体打ちしないで打継ぎを設ける場合の補強)

土間スラブは土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。a>300の場合は構造図による。また、基礎梁の増打ち補強筋は構造図による。

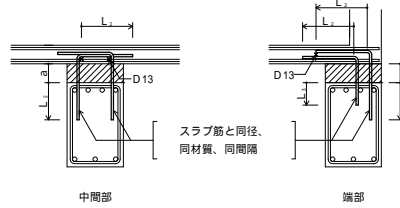


図9.10 打継ぎ補強配筋 (a 300の場合)

(b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

土間コンクリートの補強筋は構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9.11による。ただし、a>300の場合は構造図による。また、基礎梁の増打ち補強筋は構造図による。

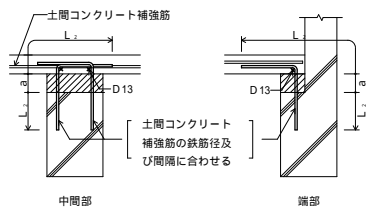


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋 (a 300の場合)

10 階段の配筋

10.1 片持スラブ形階段の基準配筋

(a) 片持スラブ形階段の基準配筋は表10.1により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による

配筋種別	KA 1	KA 2
配筋図		
配筋種別	KA 3	KA 4
配筋図		

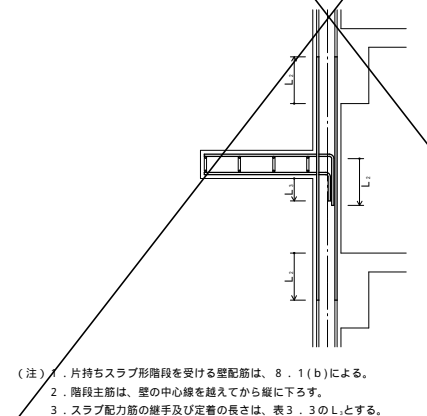


図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

9.2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

(a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は表10.2並びに図10.2、図10.3により、種別の適用、スラブ厚さは構造図による。

配筋種別	上端筋、下端筋とも (全端)
KB 1	D13・200@
KB 2	D13・150@
KB 3	D13・100@
KB 4	D13、D16・150@
KB 5	D16・150@
KB 6	D16・125@
KB 7	D16・100@

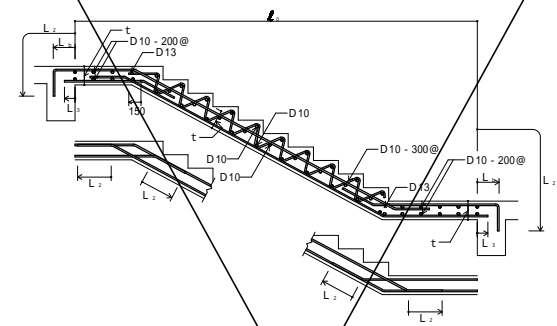


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

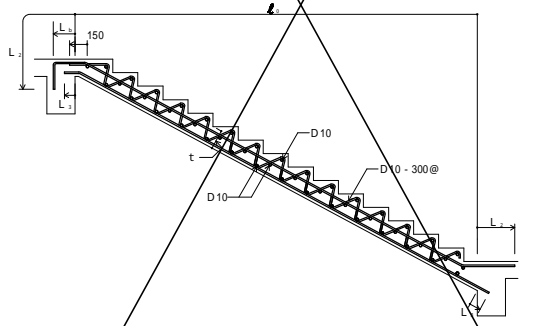
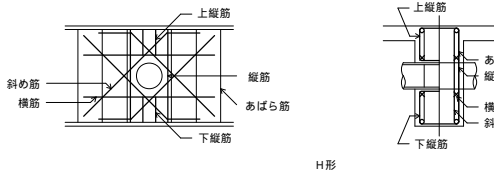


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

11 梁貫通孔その他の配筋

11.1 梁貫通孔の配筋

(a) 梁貫通孔補強筋の名称等は図11.1による。
(b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
(c) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3 Dの範囲には設けてはならない。
(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せいの径) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(e) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(g) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
(h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの (軽微な開口) で鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
(i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突き出しは10mm以上とする。
(j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1・13のリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(k) 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。



H形

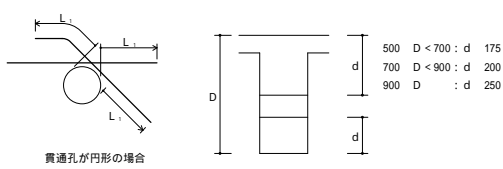


図11.2 補強筋の定着長さ

図11.3 孔の上下方向の位置の限度

11.2 梁貫通孔の補強形式

梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、種別の適用、箇所数等は構造図による

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H 1	2・2・D13	なし	なし	なし	
H 2	2・2・D13	なし	なし	なし	
H 3	4・2・D13	2・2・D13	2・2・D13	2・2・D13	
H 4	4・2・D16	2・2・D13	2・2・D13	2・2・D13	
H 5	4・2・D16	2・2・D13	2・2・D13	2・2・D13	
H 6	4・2・D19	4・2・D13	2・2・D13	3・2・D13	
H 7	4・2・D22	4・2・D13	2・2・D13	3・2・D13	

(注) 〃は、一般部分のあばら筋を示す。

11.3 耐震スリット

(a) 全震スリットとする。
(b) スリット材は変形追随性があるもので、構造耐力上影響を及ぼさないものとする。
(c) 挿入する耐火材は、1時間耐火性能を満足するものとする。
(d) スリット材には、止水対策が講じられているものとする。
(e) スリット幅は保有耐力時の層間変形角1/200により設定する。
(f) コンクリート打設時のずれ止めとして下図のように、差筋D10・400@を設けてよい。

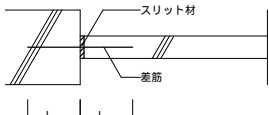


図11.3 スリット断面

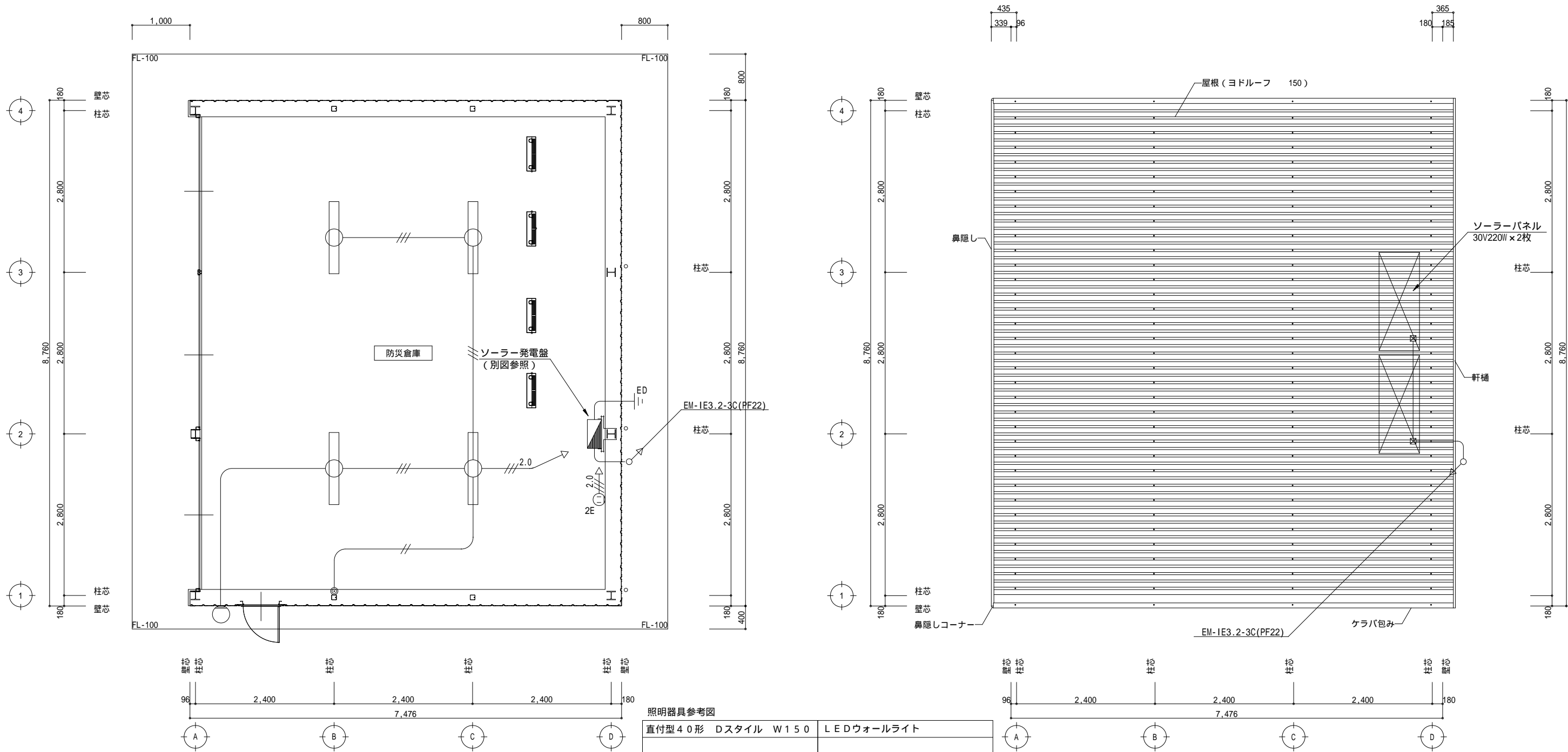
11.4 メッシュ型枠

(a) 使用箇所
使用部位は、基礎・地中梁及び関連する柱部分とする (見え掛かりで、仕上げのない部分及び、ビット部分は除く)。
(b) 材料及び構造
・メッシュ材質 鋼板: JIS G 3302、板厚0.5mm以上、めっき80g/m²以上
・枠用パイプ材質 JIS G 8305、直径25mm以上、厚さ1.2mm以上
・締付材はボルト式又は番線とし、付属材料は監督官の承認を受ける
(c) 組立て
・組立ては枠用パイプの立て込み間隔は300mm以下とする
・組立ては製造所の施工要領書に従う
(d) 型枠の取り外し
・枠用パイプの存置期間は、(6.9.5)による。また、型枠用メッシュは取り外さない。
(e) 鉄筋の最小かぶり厚さ
(表5.3.6)による。ただし、地中梁・柱は設計寸法に10mmを加える。

12.4 コンクリートの単位水量の測定



本工事は、レディーミクストコンクリートの単位水量測定の施工を実施するものとし、その実施は次によるものとする。

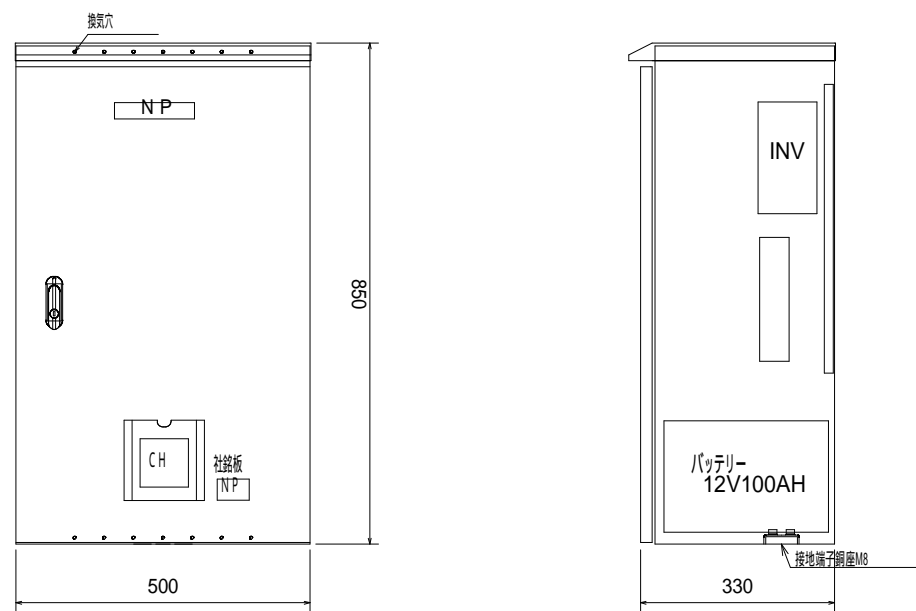
単位水量の測定
(1) 単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下るし時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2) 単位水量の計画調査書の設計値 (以下、「設計値」という) の上限値は、185kg/m³とする。
(3) 単位水量の管理目標値は次のとおりとして施工する。
測定した単位水量が、設計値±15kg/m³の範囲にある場合は、そのまま施工する。
測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
設計値±20kg/m³を超える場合は、「不合格生コン」とし、運搬車の生コンを打たずに持ち帰らせ、水量の変動の原因を調査するとともに、生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後全運搬車の測定を行い、設計値±20kg/m³以内であることを確認する。さらに設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4) 単位水量管理について記録を蓄画 (計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。
(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。



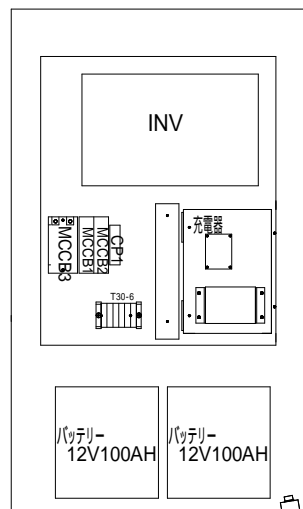
特記なき配線は下記による

///	EM-EEF1.6-2C
///	EM-EEF1.6-3C
///2.0	EM-EEF2.0-3C

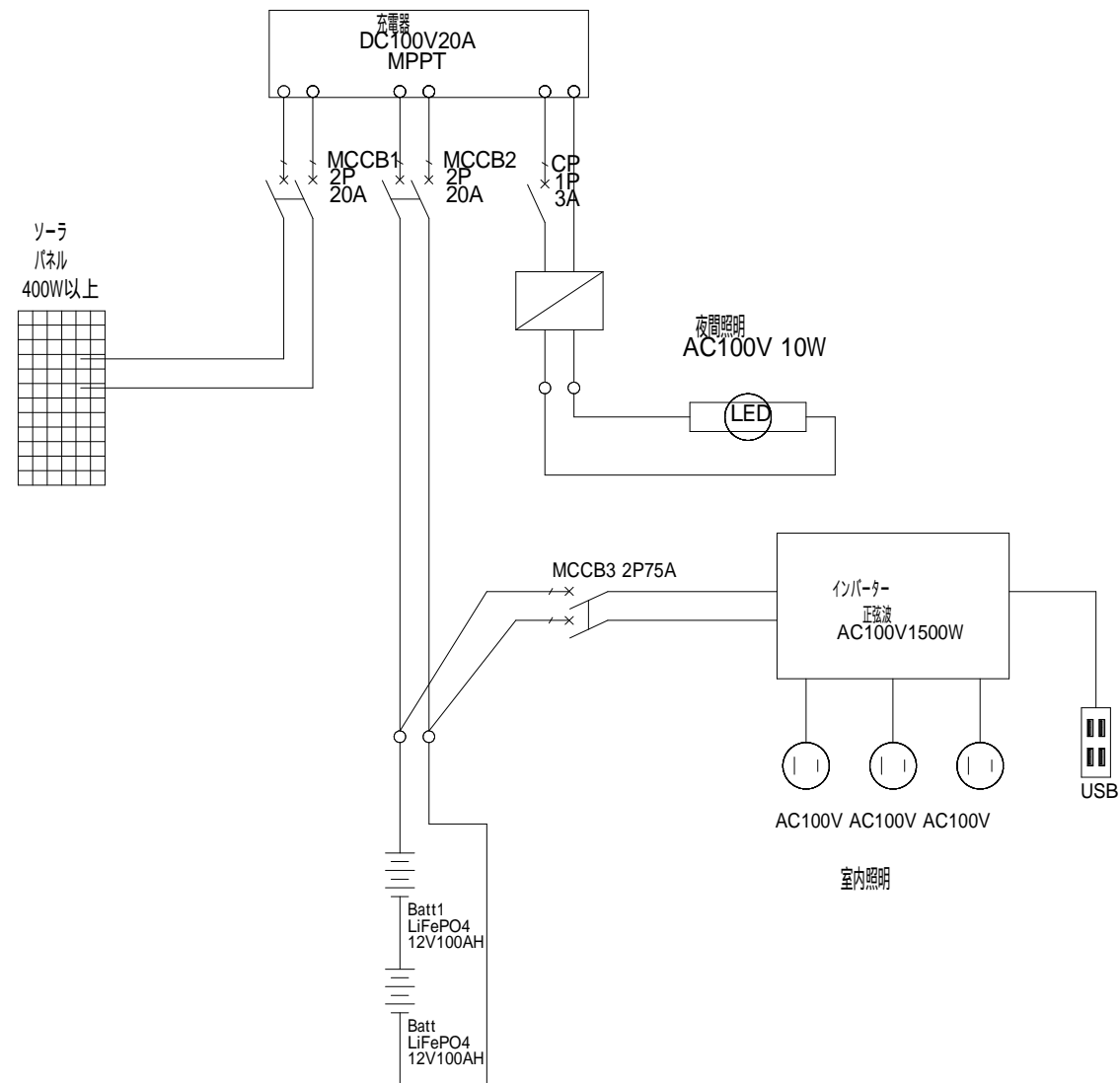
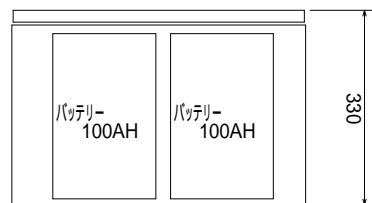
照明器具参考図	
直付型 40形 Dスタイル W150	LEDウォールライト
	
一般サイズ、5000lmタイプ 消費電力43.1W、定格出力型、電圧100-242V 本体・照明（自然光色変換） タイプ（カバー）：防カビ・防カビ（乳白） 光源寿命4000時間（光源効率85%） 照明面積（5000lm）：R4.8 電源装置はワットパーセント内蔵	防滴型、ひと（照明）センサー・センサー付（ON/OFF型） 消費電力47.5lm、消費電力4.9W、電圧100-242V 5000lm、R4.8、光源寿命4000時間（光源効率85%） 本体・光源（乳白） タイプ（カバー）：防カビ・防カビ（乳白） 電源装置はワットパーセント内蔵
直付X L X 460 A E N P L E 9	N N F S 2 1 8 1 2 C L E 9



姿図



内部配置図



システム系統図

参考

双広電機産業製-太陽光・蓄電池連携盤24V-100Ah: PV220-2枚

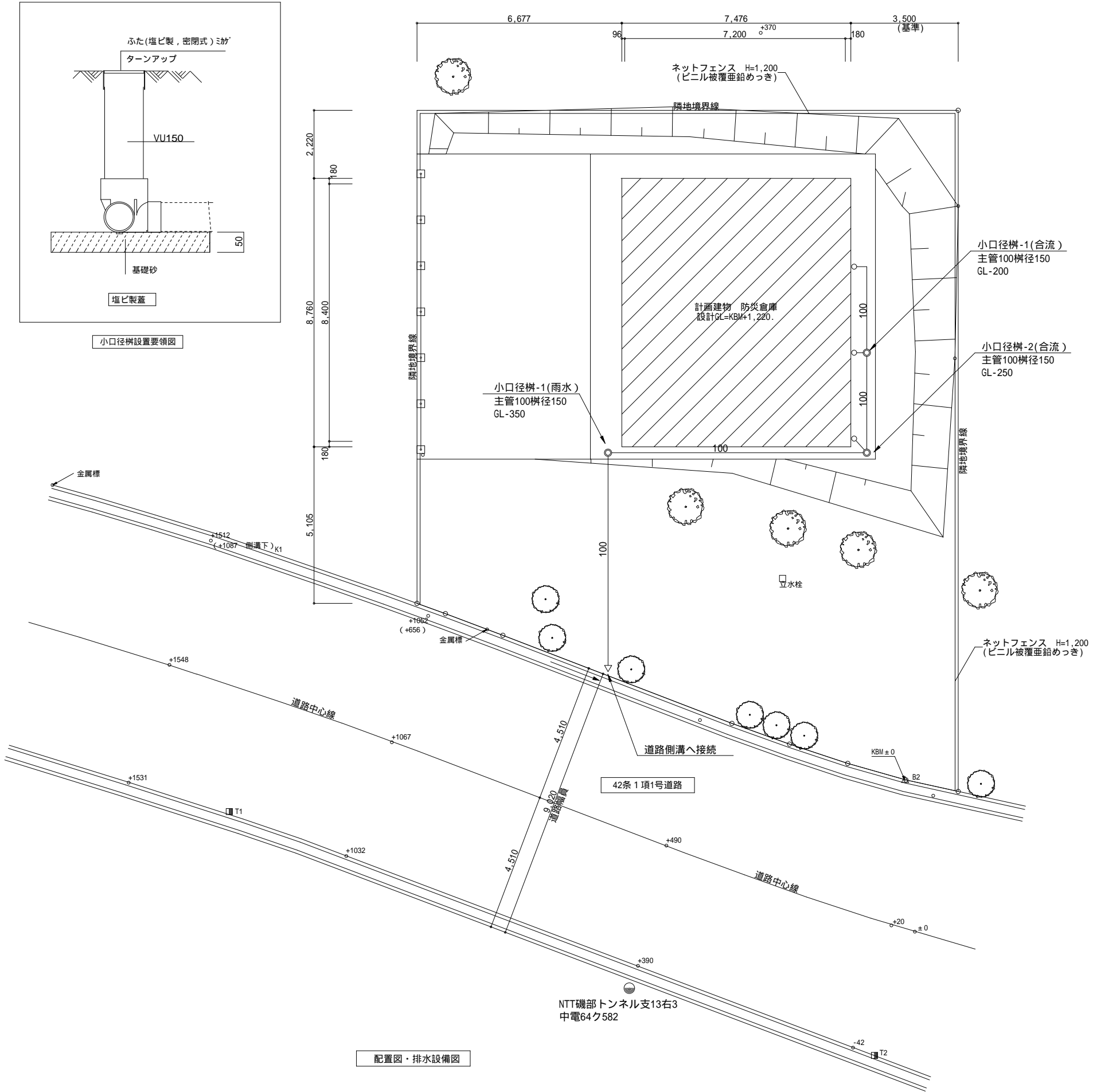
章	項 目	特 記 事 項	別表 - 1
衛生 器具 設備	1.小 便 器 2.水 栓 3.掃 除 流 し 4.和風便器耐火カバー	洗浄水量は4 L/回以下とし、使用状況により洗浄水量が制御できるものとする。 ・ カウンター取付け形 ・ 耐寒水栓（吊コマ） ・ 湯沸室流し用の水栓は泡沫式とする。 排水口は（ ・ 目皿 ・ 鎖付きゴム栓）とする。 和風便器の防火区画貫通処理は標準図による。	機 材 等 名
給水 設備	1.配管材料 2.引き込み納付金 3.量 水 器 4.量水器樹 5.水 栓 柱 6.管の地中埋設深さ 7.凍結深度	(1)一般配管 ・ ステンレス鋼管（ S U S 3 0 4 ） ・ 塩ビライニング鋼管（ ・ V A又はV B ・ ） ・ ポリ紛体鋼管（ ・ P A又はP B ） ・ 上記の選択で、ポリ紛体鋼管又は塩ビライニング鋼管を使用する場合、厨房、浴室等のシンダー内配管はP D又はV Dとする。 (2)地中埋設配管 ・ ステンレス鋼管（ S U S 3 1 6 ）（ ・ 建物内 ・ 屋外部分 ） ・ 塩ビライニング鋼管（ V D ） ・ ポリ紛体鋼管（ P D ） ・ ポリエチレン管 (3)水道直結配管 引込みは水道事業者の指定による。量水器以降は、(1)及び(2)による。 ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途工事 ） ・ 不要 親メーター（ ・ 現地表示式（直読式） ・ 遠隔表示式（ ・ 電文式 ・ バルス式 ） （ ・ 貸与品 ・ ） 親メーター（ ・ 現地表示式（直読式） ・ 遠隔表示式（ ・ 電文式 ・ バルス式 ） （ ・ 貸与品 ・ ） ・ 水道事業者指定品（ ・ 貸与品 ・ 買取り ） ・ 標準図M C形 ・ 合成樹脂製 ・ ステンレス製 ・ 人造石とぎ出し製 ・ アルミニウム合金製 ・ 埋設深さは原則として、車両通行部分では管の上端より（ ・ 600mm ・ mm）以上 その他の部分では管の上端より（ ・ 300mm ・ mm）以上 屋外配管の凍結深度は mm	
排水 設備	①配管材料 2.洗面器等の排水管 3.放流納付金 4.滴水試験継手	(1)屋内 汚水管 （及び屋外第一棟まで） ・ 排水用塩ビライニング鋼管 ・ ・ コーティング鋼管 ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ R F - V P ） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（ V P ） 雑排水管・通気管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（ R F - V P ） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（ V P ） ポンプアップ排水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ コーティング鋼管 (2)屋外 横間 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（ ・ V P ○ V U ） ・ 排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（ R E P - V U ） ・ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管（ R S - V U ） ・ コンクリート管（ ・ 外圧管1種のB形 ・ ） リサイクルビニル管の適用範囲（ R F - V P ）：屋内の無圧の排水配管用 （ R E P - V U ）：無圧排水用途の硬質塩化ビニル管 （ R S - V U ）：埋設部で無圧の一般流体輸送配管用 (1)洗面器及び手洗器に直結する排水管は器具トラップより1サイズアップとする。 (2)給湯室台所流し等の床上部分の配管は、ビニル管（ R F - V P ）でもよい。 (3)大便器、小便器、洗面器及び掃除流しとの接続管は、ビニル管（ R F - V P ）とする。 ・ 要（ ・ 本工事 ・ 別途工事 ） ・ 不要 図示の位置に取り付ける。	
給湯 設備	1.配管材料 2.保 温 3.そ の 他	給湯管（膨張管及び補給水タンクよりボイラー等への補給水管を含む） ・ ステンレス鋼管（ S U S 3 0 4 ） ・ 鋼管 ・ 耐熱性ライニング鋼管 ・ 被覆鋼管 ・ 保温付き被覆鋼管 ・ 架橋ポリエチレン管 標準仕様書第2編3.1.5によるほか、下記による。 ・ 湯沸器の給排水両（二重管）の隠ぺい箇所は表2.3.5のh・(イ) ・ の保温を行う。 電気気給湯器等の膨張水排水を設ける。	
消火 設備	1.配管材料 2.屋内消火栓種別 3.屋内消火栓開閉弁 4.地中埋設配管の接合 5.保 温	(1)屋内消火栓 一般 ・ ステンレス鋼管（ S U S 3 0 4 ） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） 地中 ・ ステンレス鋼管（ S U S 3 1 6 ） ・ (2)連結送水管 一般 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）（ S c h 4 0 ） 地中 ・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（ S T P G - 3 7 0 V S ） (3)連結散水用 ・ ・ 易操作性1号消火栓 ・ 広範囲型2号消火栓 ・ 1号消火栓 ・ 2号消火栓 箱内に別途機器（発信機及び電鈴）取付用の板を設ける。 ・ 1 0 K ・ 外面被覆鋼管の呼び径100以下はねじ接合とする。 屋外露出部分 ・ 有（標準仕様書第2編3.1.5の給水管の項による。） ・ 無	
厨 房 設 備	1.機器の寸法 2.機器の機能等	概略寸法とする。 図示による。	
ガス 設備	1.配管材料 2.ガス充てん容器 3.ガ ス メ ー タ 4.ガス漏れ警報器 5.気密試験	・ 都市ガス 一般ガス導管事業者の供給規定による。 ・ 液化石油ガス 一般配管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） 地中埋設配管 ・ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス用ポリエチレン管 ・ ・ 借用 ・ 本工事 親メーター（ ・ 貸与品 ・ ） 親メーターの形式（ ・ 直読 ・ バルス式 ） 子メーター（ ・ 買取り ・ ） 子メーターの形式（ ・ 直読 ・ バルス式 ） ・ 本工事（図示による） 外部出力端子 ・ 有 ・ 無 ・ 別途工事 都市ガス 一般ガス導管事業者の供給規定による。 液化石油ガス 保持時間は、2.4分以上とし記録計による測定表を提出する。	
槽 浄 化 設 備	1.形 式 2.測 定 表	・ ユニット形 ・ 現場施工形 一定期間経過後、放流水質性能等を記入した測定表を提出する。	

図示記号

記号	名称
	排水管

樹仕様

種別	記号	樹寸法	蓋寸法	備考
小口径雨水樹	S-2	100	密閉型150	記号



配置図・排水設備図